

# 学習指導ハンドブック 目次

「学習指導ハンドブック」の作成の趣旨と研究構想	1
第1章 新しい学習指導要領に基づいた学習指導の改善	
Ⅰ 新しい学習指導要領について	2
1 学習指導要領改訂の基本的な考え方	
2 新学習指導要領のねらい	
3 改正教育基本法のポイント	
4 学校教育法のポイント	
Ⅱ 学習指導の基本的な考え方	4
1 指導と評価の全体構想	
2 わかる授業の展開	
(1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得	
(2) 思考力・判断力・表現力の育成	
(3) 学習意欲を高める工夫	
(4) 授業研究会や教材研究の充実	
3 学びの成長の把握	
(1) 観点別の評価規準の作成	
(2) テストバッテリー調査結果の分析・活用	
(3) 評価方法の工夫	
Ⅲ 各教科における改訂のポイント	8
国語・社会・算数 数学・理科・外国語・ 音楽・図画工作・美術・体育・家庭・技術家庭・生活	
Ⅳ 指導案作成上のポイントとその実践例	26
1 指導案に書かれる項目と内容、留意すべき点	
2 国語科・社会科・算数科・理科・英語科の指導案例	
第2章 校内研修の充実と授業研究会の改善に向けて	
Ⅰ 校内研修の進め方	53
Ⅱ 授業研究の改善	53
1 授業研究とは	
2 授業研究のねらい	
3 授業研究会改善のポイント	
Ⅲ 授業研究改善の実践例	61
1 「指導案拡大型のワークシート」による授業研究会	
2 「マトリックスのワークシート」による授業研究会	
3 授業研究会に参加した研究員の感想	
4 授業リフレクションの手法を用いた授業研究会の期待される成果と留意点	

## 平成22年度版「学習指導ハンドブック」の作成研究

足利市立教育研究所

### 1 趣旨

基礎・基本の確実な定着を図り、自ら学ぶ意欲や自ら考える力などを育成することは生涯学習を目指した学習指導の中心的な課題である。

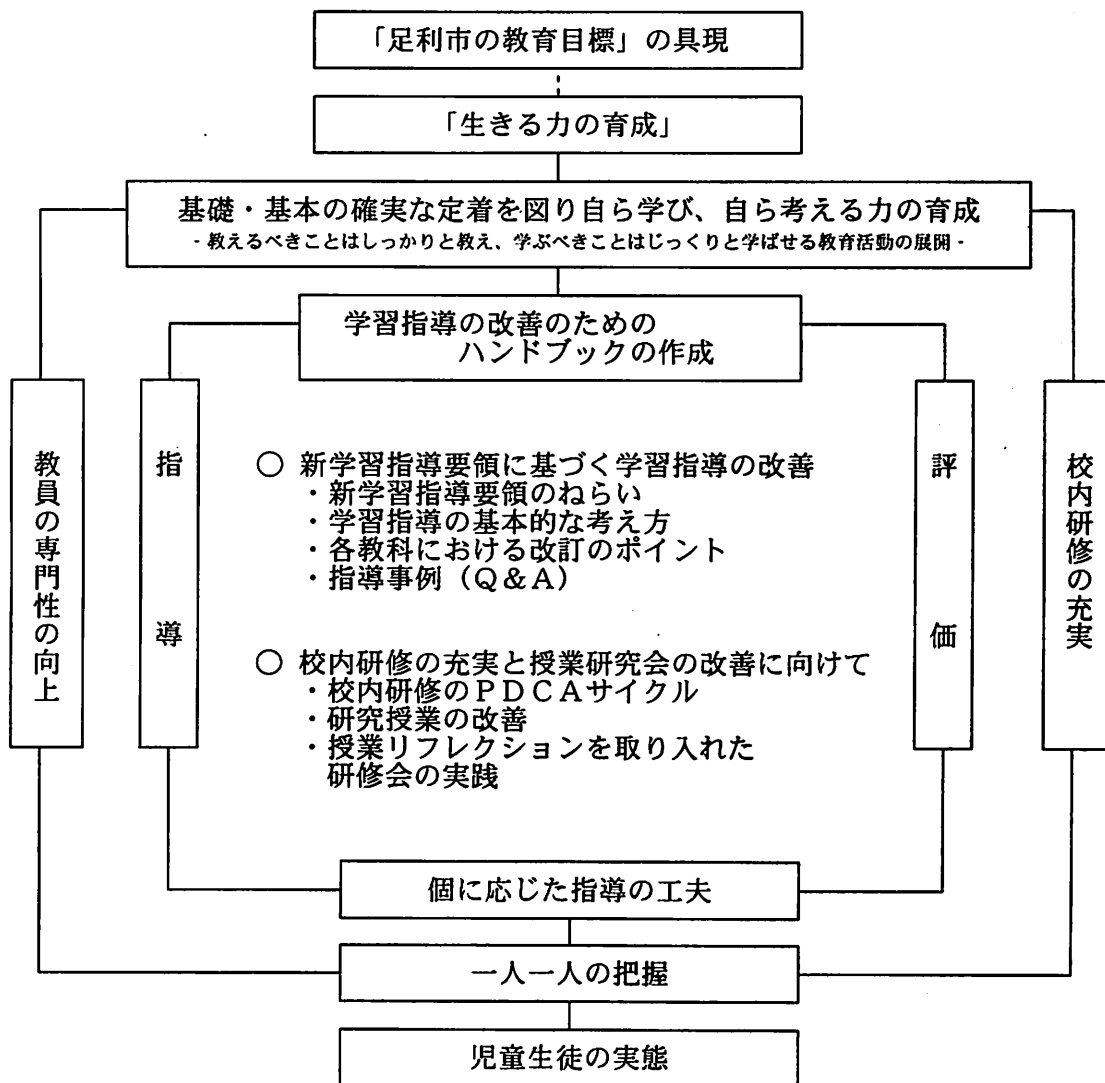
本市においては、「足利市の教育目標」の52番に「基礎的な知識や技能を習得し、自ら学びとる態度を身につける」ことを児童期及び青年期の重点目標として掲げている。

現在、その具現に向け、教師の指導力の向上を図るための学習指導主任研修会を開催したり、基礎・基本の定着を図るための研究を推進したりしている。さらに、テストバッテリー調査や全国学力・学習状況調査の結果の分析等を行い、各学校に対し、学力向上に向けた学習指導改善の取り組みを促しているところである。

本市教育委員会では、「教えるべきことはしっかりと教え、学ぶべきことは根気強く学ばせる」というスローガンのもと、一人一人の把握、学習指導の改善、人間関係の構築に努めている。これは、新学習指導要領の「基礎・基本の確実な習得と、思考力、判断力、表現力の育成」の重視と軌を一にするものである。

そこで、これまで、教職員に配布してきた学習指導ハンドブック（平成14年版）を見直し、校内研修の充実や教師の学習指導改善に役立つ具体的な資料を作成し、その活用を図ることで、本市の教育の質的向上に寄与することをねらいとする。

### 2 研究推進構想



## 第1章 新しい学習指導要領に基づいた学習指導の改善

### I 新しい学習指導要領について

#### 1 学習指導要領改訂の基本的な考え方

- ・現行学習指導要領の理念である「生きる力」をはぐくむこと。この理念は新しい学習指導要領にも引き継がれます。

#### 「生きる力」とは

- 基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力
- 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
- たくましく生きるための健康や体力 など

教育基本法や学校教育法の改正などを踏まえ、「生きる力」を育むという学習指導要領の理念を実現するため、その具体的な手立てを確立する観点から学習指導要領の改訂が行われました。

#### 学習指導要領改訂のポイント

- ① 改正教育基本法等を踏まえた学習指導要領改訂
- ② 「生きる力」という理念の共有
- ③ 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ④ 思考力・判断力・表現力等の育成
- ⑤ 確かな学力を確立するために必要な時間の確保
- ⑥ 学習意欲の向上や学習習慣の確立
- ⑦ 豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実

#### 2 新学習指導要領のねらい

「21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる『知識基盤社会』の時代」が進み、ますます「生きる力」が必要となると考えられます。その際、「知的活動（論理や思考）の基盤」と「コミュニケーションや感性・情緒の基盤」となる言語の役割に着目して新たに言語活動の充実が提案され「生きる力」を育むことを目指しました。さらに、改正教育基本法等から要請された「伝統や文化」に関する教育の充実と、これまでも課題であり続けた「道徳教育の充実」なども新学習指導要領の重要ポイントとなっています。

このように、知識基盤社会化やグローバル化が進展する時代には、基礎的・基本的な知識・技能の習得や、それらを活用して課題を見いだし解決するための思考力・判断力・表現力等が必要であるとし、これらの力は現行の学習指導要領が教育理念としてかかげてきた「生きる力」だとしています。

### 3 改正教育基本法のポイント

改正教育基本法では第1章の「教育の目的及び理念」に注目したいと思います。ここには教育の目的と目標を規定しています。まず、教育の目的は「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた国民の育成を行うこと」としています。次にこの目的を実現するため、新たに「教育の目標」として5項目を定めています。そこには教育のキーワードとなるものが数多く並んでいます。たとえば、「幅広い知識と教養」「豊かな情操と道徳心」「健やかな身体」「能力の伸長」「自律の精神」「職業との関連を重視」「男女の平等」「公共の精神」「生命や自然の尊重」「環境の保全」「伝統と文化の尊重」「わが国と郷土を愛し、他国を尊重」などです。さらに、新設された第5条2項です。ここでは「義務教育として行われる普通教育は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家および社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的として行われる」という義務教育の目的を示しています。これはこれまで小学校と中学校を別々に考えがちであった義務教育を一体のものとして捉える視点を示したものと考えることができます。

### 4 学校教育法のポイント

学校教育法では、教育基本法の改正を受けて新たに義務教育の目標を第21条に規定しました。同条では、まず1項で「学校内外における社会的活動を促進し、自主、自律及び協同の精神、規範意識、公正な判断力並びに公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」と定め、さらに、2項から10項までに「環境の保全」「伝統と文化」「衣、食、住、情報、産業」「生活に必要な国語」「数量的な関係」「体力」「音楽、美術、文芸その他の芸術」「職業」などの内容を示しました。また、学校教育基本法第30条2項に学力に関する内容を定めていることに注目したいと思います。ここでは、「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない」と定めています。

中央教育審議会ではこの内容を取り上げ答申においては、以下の3点に要約して、学力の重要な要素を明確に示したものと評価しています。

①基礎的な知識・技能の習得

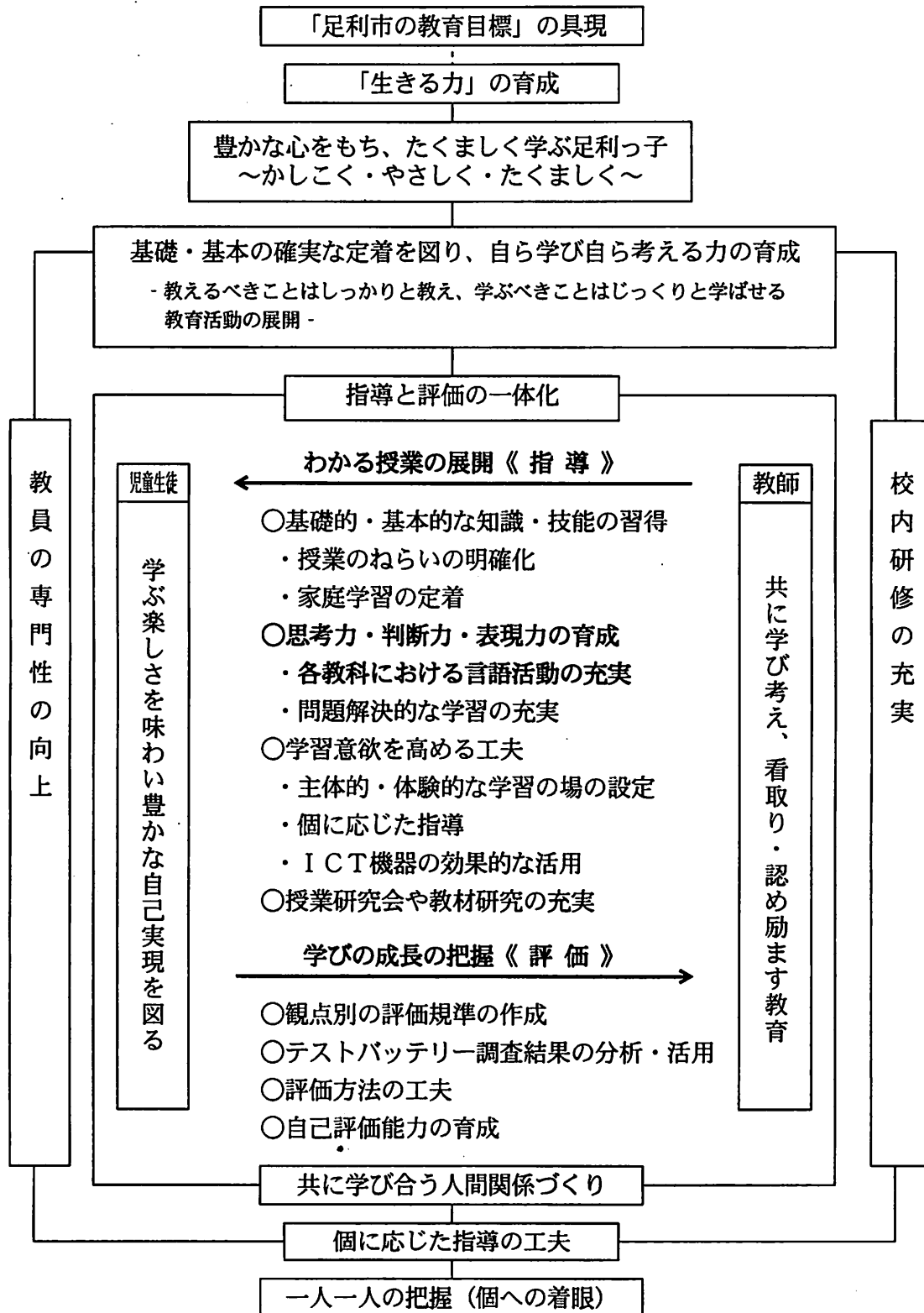
②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等

③主体的に学習に取り組む態度

以上の義務教育の目的と目標、学力の要素など、改正教育基本法や学校教育基本法等を踏まえた上で学習指導要領の改訂を行っています。

## II 学習指導の基本的な考え方

### 1 指導と評価の全体構想



児童生徒の実態と学習成果を的確にとらえ、そこから得た情報を、学習指導に効果的に生かしながら、一人一人のよさや可能性を引き出し、自ら学びとる過程を重視した指導の工夫に努めることが重要です。

## 2 わかる授業の展開

### (1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得

学習指導要領に示された目標及び内容を把握し、単元レベルや一単位時間レベルでの学習課題を明確にしていくことが大切です。

また、発達や学年の段階に応じた指導を重視することも大切です。もちろん、個人差等はあるものの、一般的に、小学校低学年から中学年までは、体験的な理解や具体物を活用した思考や理解、繰り返し学習といった工夫による「読み・書き・計算」の能力の育成を重視することが大切です。中学年から高学年にかけて以降は、体験を取り入れながら理論を習得するために、討論・観察・実験による思考や理解を重視するといった指導上の工夫が有効です。このような観点から、「読み・書き・計算」などの基礎的・基本的な知識・技能の面については、小学校の低・中学年を中心に、発達の段階に応じて徹底して習得させ、学習の基盤を構築していくことが大切です。

さらに、家庭とも連携しながら効果的な家庭学習の課題を出し、体験的な活動や音読、暗記・暗唱、反復学習などを通じて、基礎的・基本的な知識・技能を体験的、身体的に理解することも重要です。

### (2) 思考力・判断力・表現力の育成

児童生徒の学力に関する各種の調査の結果は、いずれも知識・技能の活用など思考力・判断力・表現力等に課題があることが明らかになりました。そこで、各教科の指導の中で、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、観察・実験やレポートの作成、論述といったそれぞれの教科の知識・技能を活用する学習活動を充実させる必要があります。

各教科におけるこのような取り組みがあつてこそ総合的な学習の時間における教科等を横断した課題解決的な学習や探究的な活動も充実するし、各教科の知識・技能の確実な定着にも結び付きます。このように、各教科での習得や活用と総合的な学習の時間を中心とした探究は、決して一つの方向で進むだけではなく、知識・技能の活用や探究がその習得を促進するなど、相互に関連し合つて力を伸ばしていくものと考えます。

例えば、以下のような学習活動が重要になります。このような活動を各教科において行うことが、思考力・判断力・表現力等の育成にとって不可欠です。

#### ○体験から感じ取ったことを表現する。

- ・日常生活や体験的な学習活動の中で感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体などを用いて表現する。

#### ○事実を正確に理解し伝達する。

- ・身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する。

#### ○概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。

- ・需要、供給などの概念で価格の変動をとらえて生産活動や消費活動に生かす。
- ・衣食住や健康・安全に関する知識を活用して自分の生活を管理する。

#### ○情報を分析・評価し、論述する。

- ・学習や生活上の課題について、事柄を比較する、分類する、関連付けるなど考える



ための技法を活用し、課題を整理する。

- ・文章や資料を読んだ上で、自分の知識や経験に照らし合わせて、自分なりの考えをまとめて、A4・1枚(1000字程度)といった所与の条件の中で表現する。
- ・自然事象や社会的事象に関する様々な情報や意見をグラフや図表などから読み取ったり、これらを用いて分かりやすく表現したりする。
- ・自国や他国の歴史・文化・社会などについて調べ、分析したことを論述する。

○課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。

- ・理科の調査研究において、仮説を立てて、観察・実験を行い、その結果を整理し、考察し、まとめ、表現したり改善したりする。
- ・芸術表現やものづくり等において、構想を練り、創作活動を行い、その結果を評価し、工夫改善する。

○互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。

- ・予想や仮説の検証方法を考察する場面で、予想や仮説と検証方法を討論しながら考えを深め合う。将来の予測に関する問題などにおいて、問答やディベートの形式を用いて議論を深め、より高次の解決策に至る経験をさせる。

### (3) 学習意欲を高める工夫

本市においても、学力の重要な要素である学習意欲やねばり強く課題に取り組む態度自体に個人差が広がっているといった課題が認められます。家庭学習も含めた学習習慣の確立に当たっては、特に小学校の低・中学年の時期が重要となります。

まず、習熟度別・少人数指導や補充的な学習といったきめ細かい個に応じた指導などを必要に応じ外部人材の活用を図りつつ行うことにより、児童生徒がつまずきやすい内容をはじめ基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る必要があります。児童生徒にとって、分かる喜びは学習意欲の向上につながるものです。

また、観察・実験やレポートの作成、論述など体験的な学習、知識・技能を活用する学習や勤労観・職業観を育てるためのキャリア教育などを通じ、児童生徒が自らの将来について夢やあこがれをもったり、学ぶ意義を認識したりすることが必要です。職業資格、語学や漢字、歴史などについての各種検定への取り組みなど具体的な目標設定の工夫も重要です。

さらに、学校へ導入されたICTの活用場面と効果的な活用を図ることも重要です。授業の導入段階で活用することで、本時への学習意欲がより一層喚起できると考えられます。また、主体的にインターネット等を活用しての調べ学習や相手に伝わりやすい発表資料を作成するなどの学習活動も大切です。

### (4) 授業研究会や教材研究の充実

指導と評価の一体化を図るためにもPDCAサイクルを確立していくことは非常に重要なことです。その流れは、指導計画(評価規準の作成)→授業実践(指導法の研究・教材研究など)→授業評価(授業研究会の充実)→見直し(指導・評価の改善)で表すことができます。研究員研究では、授業実践後の授業評価について校内授業研究会を充実させる実践を試みました。校内授業研究会を活性化させるために、研究会の持ち方などを第2章に載せたので参考にしてください。

### 3 学びの成長の把握

評価の機能の役割とは、一人一人のよさや可能性を積極的に評価し、児童生徒が自分を見つめ直し自らの学習状況を確認するなど、学ぶ楽しさを味わい豊かな自己実現に役立つようにすることです。したがって、児童生徒にとっての評価は、その後の学習に生かすためにあります。また、指導する教師にとっての評価は、指導計画や指導方法等が有効に働いているかどうかを見極め、今後の改善への手がかりを得るためにあります。児童生徒の学びを把握し、指導に生かすための評価は、指導の終着点ではなく、出発点でもあることを認識し、指導と評価の一体化を図っていくことが重要です。

#### (1) 観点別の評価規準の作成

評価すべき観点を明確にするためにも、各学校で評価規準を作成し、計画的な指導に臨むことが大切です。その際、新学習指導要領の目標に照らして、児童生徒の実現状況を見る絶対評価を基本に据えると共に、児童生徒一人一人の良い点や可能性、進歩の状況などを評価するため、個人内評価を工夫することも重要です。

#### (2) テストバッテリー調査結果の分析・活用

一人一人の学習状況を把握するための一つ的手段として、テストバッテリー調査を活用することは大切なことです。特に、アンダーアチーバーやオーバーアチーバーの児童生徒に対しては、学習状況・生活状況を丁寧に把握し、個別に指導をしていくことも必要です。また、国語や算数・数学の授業において、各学校での実態に応じた学習指導の改善や活用に重点をおいた指導を工夫することが大切です。そして、保護者への説明資料として活用していくことも重要なことと考えます。

#### (3) 評価方法の工夫

各学校においては、各教科の学習活動の特質、評価の場面や評価規準、児童生徒の発達段階に応じて、ペーパーテスト、ワークシート、学習カード、観察、面接、質問紙、作品、ノート、レポートなどの様々な評価方法の中から、その場面における児童生徒の学習の状況を的確に評価できる方法を選択していくことが必要です。また、評価が学期末や学年末などに偏ることのないよう、評価の時期を工夫したり、学習の過程における評価を一層重視するなど、評価の場面についても工夫を加えることが大切です。さらに、このような評価方法に加えて、児童生徒による自己評価や児童生徒同士の相互評価を工夫することも有効なことです。このうち、自己評価については、「関心・意欲・態度」の把握だけでなく、児童生徒が自己の学習の状況を確認し、次の学習に意欲的に進めるようにする観点からも大切であり、相互評価については、他の児童生徒の学習の状況を評価することにより自己の学習状況の把握にも役立つものと考えます。評価を適切に行うという観点に立てば、できるだけ多様な評価を行い、多くの情報を得ることが重要ですが、他方、評価に追われてしまえば、目的が十分に達成できなくなるおそれがあります。評価を常に指導に生かすという視点に留意すべきです。



### Ⅲ 各教科における改訂のポイント

#### 国 語

##### ◎新学習指導要領の目標（小学校）

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や創造力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

\*これまでと変更はありません。

#### 1 国語科の改訂のポイント

- (1) 学習過程の明確化（指導事項については学習過程が明確化されました。）
- (2) 言語活動の充実（言語活動例を通して指導することが一層強調されました。）  
これまで内容の取扱いに示していた言語活動例を、内容の（2）に示すことにより、具体的に示された言語活動例を通しての指導が一層重視されました。
- (3) 学習の系統性の重視（重点を置くべき指導内容を明確にし系統性を図りました。）  
例えば、「読むこと」では、  
低学年：場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む  
中学年：登場人物の気持ちの変化や情景など、叙述を基に想像して読む  
高学年：登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえて読む  
といったように、指導事項を系統化しています。
- (4) 伝統的な言語文化に関する指導の重視（小学校低学年から親しむようにします。）
- (5) 読書活動の充実（本を選び活用すること、学校図書館の利用が重視されました。）
- (6) 文字指導の内容の改善（日常生活において確実に使えることを重視しました。）  
情報機器の活用等を考慮し、ローマ字の指導が4学年から3学年に移行しました。

#### 2 指導の改善点のポイント

- (1) 学習過程を明確にし主体的な学びを大切にしましょう。
  - 見通しや目的意識をもたせましょう。
    - ・どんな言語活動をどんな手順で行っていくか明確に。
    - ・1時間1時間でのねらいをしっかりと押さえて。
    - ・自らの言語活動の振り返りを大切に。
- (2) 漢字は、日常生活や他教科の学習で確実に使えるようにしましょう。
  - 繰り返し何度も練習しましょう。
    - ・上の学年に配当されている漢字も振り仮名を振って読む機会を増やそう。
    - ・学年別漢字配当表以外の常用漢字も振り仮名を振って親しませよう。
    - ・実際の文章や表記の中で繰り返し学習させよう。
- (3) 日常生活に関連させましょう。
  - 身の回りの国語に関する事象を大切にしましょう。
    - ・書写では手紙を書いたり記録をとったり実際に役立つ活動を中心に。
    - ・敬語の指導では、実際の場面で使い慣れるように。
    - ・言葉のきまりについては、書くことや読むことに関連づけて。

#### 3 国語科を実施するにあたってのQ&A

##### 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項、とはどんなことですか。

内容は、(1)の「ア伝統的な言語文化に関する事項」、「イ言葉の特徴やきまりに関する事項」、「ウ文字に関する事項」、(2)の書写に関する事項から構成されています。

特に「ア伝統的な言語文化に関する事項」については、

低学年：昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること

中学年：易しい文語調の短歌や俳句の音読や暗唱、ことわざや慣用句、故事成語の学習

高学年：古文や漢文、近代以降の文語調の文章の学習や解説文の学習

となります。継承されてきた伝統的な言語文化に親しみ、継承・発展させる態度を育てることが主なねらいであり、そのための言語活動は音読が中心になりますが、中学年以降では、内容の理解や、適切な使用、昔の人のものの見方や感じ方を知る学習も入ってきます。

# 国語

## ◎新学習指導要領の目標（中学校）

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や創造力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

\*これまでと変更はありません。

### 1 国語科の改訂のポイント

- (1) 学習過程の明確化（指導事項については学習過程が明確化されました。）
- (2) 言語活動の充実（言語活動例を通して指導することが一層強調されました。）  
これまで内容の取扱いに示していた言語活動例を、内容の（2）に示すことにより、具体的に示された言語活動例を通しての指導が一層重視されました。
- (3) 学習の系統性の重視（重点を置くべき指導内容を明確にし系統性を図りました。）  
例えば、「読むこと」では、文学的な文章について、
  - 1 学年：場面の展開や登場人物などの描写に注意して読む
  - 2 学年：登場人物の言動の意味などを考えて読む
  - 3 学年：場面や登場人物の設定の仕方をとらえて読むといったように、指導事項を系統化しています。
- (4) 伝統的な言語文化に関する指導の重視（親しみ継承し新たな創造へつなげます。）
- (5) 読書活動の充実（本を選び活用すること、学校図書館の利用が重視されました。）
- (6) 漢字指導の内容の改善（様々な文脈の中で使えることを重視しました。）
- (7) 書写の指導の改善（文字文化に親しみ、役立つ指導、効果的に書く指導を）

### 2 指導の改善点のポイント

- (1) 学習過程を明確にし自ら課題を設定するなど主体的な学びを大切にしましょう。
  - 見通しや目的意識をもたせましょう。
    - ・ どのような言語活動をどんな手順で行っていくか明確に。
    - ・ 1時間1時間でのねらいをしっかりと押さえて。
    - ・ 知識・技能を活用し、他者と相互に思考を深めながら。
    - ・ 自らの言語活動の振り返りを大切に。
- (2) 日常生活に関連させましょう。
  - 身の回りの国語に関する事象を大切にしましょう。
    - ・ 漢字は、社会生活や他教科等の学習に資するため、確実に使えるよう指導。
    - ・ 敬語の指導では、実際の場面で適切に使えるように。
    - ・ 言葉のきまりについては、書いたり読んだりするとき役立つように。
    - ・ 日常的な読書、情報収集のための図書館や情報機器の効果的な利用など。

### 3 国語科を実施するにあたってのQ&A

**伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項、とはどんなことですか。**

内容は、(1)の「ア伝統的な言語文化に関する事項」、「イ言葉の特徴やきまりに関する事項」、「ウ漢字に関する事項」、(2)の書写に関する事項から構成されています。

特に、各学年における「ア伝統的な言語文化に関する事項」については、

- 1 学年：文語のきまりや訓読の仕方を知り、古典特有のリズムを味わいその世界に触れる。  
古典には様々な種類の作品があることを知る。
- 2 学年：特徴を生かして朗読するなどして古典の世界を楽しむ。  
もの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像する。
- 3 学年：歴史的背景などに注意して読み、その世界に親しむ。  
古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書く。

となります。小学校から系統的に設定している事項ですので、中学校ではそれを踏まえ、一層古典に親しませるとともに、我が国に長く伝わる言語文化について関心を広げたり深めたりすることが重視されています。

# 社会

## ◎新学習指導要領の目標（小学校）

社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

前回の改訂と大きく変わったところはありません

### 1 社会科の改訂のポイント

#### (1) 学習や生活の基盤となる知識・技能の定着を図ります。

中学年では、「方位や主な地図記号」、「47都道府県の名称と位置」。第5学年で「世界の主な大陸や海洋」「我が国の位置や領土」が追加されました。また、第5学年及び第6学年の目標に「地球儀の活用」が盛り込まれました。学習や生活のために必要なことをきちんと覚えさせることです。さらに、身につけた知識や技能を活用し、新たな知識を獲得できるようにすることです。

#### (2) 我が国の伝統や文化に対する理解を深めます。

中学年では「古くから残る建造物」、「伝統や文化などの地域の資源を保護・活用している地域」を取り上げます。歴史に「狩猟・採集」が追加され、「室町文化」や江戸時代の「町人の文化、新しい学問」の項目が示されました。我が国の代表的な文化遺産として「国宝、重要文化財、世界文化遺産」が例示されました。

#### (3) よりよい社会の形成に参画する力を高めます。

中学年で「地域の社会生活を営む上で大切な法やきまり」、第5学年で「情報化した社会の様子と国民生活とのかかわり」、金融や経済についての基礎的知識を身につけるため「価格や費用」について扱います。また、環境や防災にかかわる内容を充実させます。社会の変化に伴い、我が国の当面している新しい課題に対して、解決を目指すことができる力を養うことです。

#### (4) 言語活動の充実を図ります。

どの学年にも「調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする」と明示されました。観察や調査をしたり、各種資料から調べたりするだけでなく、考えたことを自分の言葉でまとめることを重視します。そして、それを伝え合うことでお互いに考えを深めていく活動を工夫する必要があります。

### 2 指導の改善のポイント

教えて、考えさせ、自分の言葉で表現できる社会科

＜基盤となる知識・技能の定着＞＜作業的、体験的、問題解決的な学習活動の工夫＞

↓  
＜わかったこと、考えたことを交流＞

↓  
＜社会の変化にともなって提起されている課題を追究＞  
(社会参画する力を高める)

- ※ 学習活動のねらいを明確にし、何のために（目標）何を（学習内容）どのように（活動方法）を意識して指導にあたりましょう。
- ※ 社会の変化にともなって提起されている課題に対しては、児童の実態に合わせ、学習が高度にならないように配慮しましょう。
- ※ 広い視野から地域社会、我が国の国土、世界に対する理解を深めるために、地図や地球儀を効果的に活用しましょう。
- ※ 社会的事象の意味、特色、事象間の関連を説明できるように、図書室の本やコンピュータを活用して、地図や統計など各種の資料から必要な情報を集め、読み取る活動を取り入れましょう。そのことが言語活動の充実につながります。

# 社会

## ◎新学習指導要領の目標（中学校）

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

前回の改訂と大きく変わったところはありません

### 1 社会科の改訂のポイント

#### (1) 基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得を目指します。

知識・技能の「習得」「活用」「探究」を基本に据えて改善すべきとされています。学ぶべき知識あるいは概念を明確にすることが求められています。

#### (2) 言語活動の充実を図ります。

知識、概念を活用して「解釈」「説明」「論述」といった言語活動にかかわる学習を一層重視します。

#### (3) 社会参画、伝統や文化、宗教に関する学習の充実を図ります。

「世界」「社会経済システム」「伝統や文化、宗教」の理解を通して、「持続可能な社会の実現のための社会参画」をしていく資質や能力を育成することを重視します。

### 2 各分野における指導の改善のポイント

#### (1) 地理的分野

ア 「地域的特色をとらえさせるための視点や方法を身に付けさせる」から「地域的特色や地域の課題をとらえさせる」に目標（2）が見直されました。

イ 習得・活用・探究を意識した内容構成になりました。

＜地理的認識の座標軸を形成する地域構成の学習＞

↓  
＜世界各地の人々の多様性を理解する学習＞

↓  
＜日本全体を大観する学習＞

↓  
＜諸地域の地域的特色についての学習＞

↓  
＜調べ学習＞

ウ グローバル化、環境問題が深刻化する現代では、世界の諸地域についてイメージを持てるように指導する必要があります。

エ 動態地誌的な学習を進め、地域的特色ある事象や事柄を中核にして、関連づけを行いながら指導を進めていきます。

オ 地図の読図や作図などの学習活動を充実させ、地理的技能の育成を目指しましょう。

カ 「身近な地域の調査」の中で社会参画の視点を取り入れた調べ学習を行いましょう。

#### (2) 歴史的分野

ア 我が国の歴史の大きな流れを理解する学習を重視しましょう。

- ・ 学習内容の構造化と焦点化
- ・ 各時代の特色をとらえさせる学習の新設
- ・ 古代までの学習の大観化

イ 各時代の特色や各時代の転換の様子について考えたり表現したりする学習を取り入れ、歴史について考察する力や説明する力をつけます。

ウ 近現代の歴史について、具体的な事例を取り上げて、思考や表現を重視した学習を進めましょう。

エ 各時代の伝統や文化の特色の理解につながる学習を重視しましょう。

オ 我が国と諸外国の歴史と文化が相互に深くかかわっていることを考える学習を行い、我が国の歴史の背景となる世界の歴史についての学習を充実させましょう。

#### (3) 公民的分野

ア 現代社会の特色や現代社会における文化の意義や影響に関する学習を新たに取り入れます。

イ 身近な社会に目を向け、「対立と合意」「効率と公正」などを取り上げ、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を養う学習を重視します。

ウ 経済では金融のしくみや働き、政治では裁判員制度など現代社会の諸問題を取り上げ、社会の変化に対応した法や金融などに関する学習を重視します。

エ 持続可能な社会を形成するという観点から、社会科で学んだ知識や概念、技能を生かし社会科のまとめの学習を行い、社会の形成に参画する態度を養うことを重視しましょう。

# 算 数

## ◎新学習指導要領の目標（小学校）

算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。

### 1 算数科の改訂のポイント

#### (1) 「算数的活動を通して」

算数的活動とは、児童が目的意識をもって主体的に取り組む算数にかかわりのある様々な活動であり、これを通して授業を進めることがより一層強調されています。算数的活動には作業的・体験的な活動や具体物を用いたりする活動のほかに、算数に関する課題について考えたり、説明する活動も含まれます。

#### (2) 「見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てる」

考える力の育成については、数学的な考え方、特に帰納的な考え、類推的な考え、演繹的な考えができるようにしていくことが必要です。

言葉、数、式、図、表、グラフなどを、「思考の道具」として用いることができるようにするとともに、「説明の道具」として用いることができるようにすることが大切です。

- ◎帰納的な考え・・・「幾つかの具体例を調べて共通性を見付ける」
- ◎類推的な考え・・・「類似の場面から推測する」
- ◎演繹的な考え・・・「ある前提を基にして説明していく」

#### (3) 「進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる」

基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることと、身に付けた知識・技能を生活に生かすとともに、さらなる学習へと活用していくことを重視し、算数的活動の楽しさや、算数のよさを実感させることが大切です。

### 2 これからの算数・数学教育に求められるもの

基礎的・基本的な知識・  
技能の確実な習得

+

習得した知識・技能を活用して課題を解決す  
るための思考力・表現力等の育成

確かな学力

児童が楽しい・面白い・素晴らしいと感じることができる授業

### 3 各領域別に重視している内容

- ①「数と計算」・整数、小数、分数の意味と表し方を理解すること。
  - ・数についての感覚を豊かにすること。
  - ・言葉や数による表現力を育てること。
  - ・計算における意味理解、計算の仕方及び習熟し活用することの三者の指導。
- ②「量と測定」・様々な量の単位と測定について理解すること。
  - ・量の大きさについての感覚を豊かにすること。
  - ・面積の求め方などを自分で考えたり説明すること。
- ③「図形」・図形の意味と性質を理解すること。
  - ・図形についての感覚を豊かにすること。
  - ・図形の見方を生活や学習へ活用すること。
- ④「数量関係」・数量についての事柄を、言葉や数、式、表、グラフなどによって表現すること。
  - ・二つの数量間の変化や対応を調べるなど関数の考えを育てること。

# 数 学

## ◎新学習指導要領の目標（中学校）

数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。

### 1 数学科の改訂のポイント

- (1) 「数学的活動の楽しさや数学のよさを実感することができるようにすること」  
生徒が数学の学習に主体的に取り組むことができるようになるためには、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感することが大切です。そのためには数学的活動を通して指導することが重要です。「数学的活動の楽しさ」についてはそれによって生徒にどのような知的成長がもたらされるかという質的側面にも目を向ける必要があります。
- (2) 「事象を数理的に考察し表現する能力を高めること」  
事象を数理的に考察することは、日常生活や社会における事象と数学の世界における事象とを対象とするものです。それぞれの特性をとらえ、事象を数理的に考察する能力を高めるようにすることが必要です。
- (3) 「活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てること」  
数学を活用しようとする態度を育てることは、数学の学習に主体的に取り組むことにつながります。数学を活用することの趣旨を明らかにし、生徒が数学を活用して考えたり判断したりする機会を設け、その必要性や有用性を実感を伴って理解できるようにすることが重要です。

### 2 各領域別に重視している内容

#### ① 「数と式」

- 〔数について〕 (ア)：数の範囲の拡張と数の概念を理解する。  
(イ)：新しく導入された数の四則計算の意味と方法を理解し、その計算ができる。
- 〔式について〕 (ア)：文字のもつ意味、特に変数の意味を理解する。  
(イ)：文字を用いた式に表現したり、文字を用いた式の意味を読みとったりする能力を育成する。  
(ウ)：文字を用いた式の計算や処理に関する能力を育てる。

#### ② 「図形」

- 〔図形概念形成と性質の理解について〕  
(ア)：基本的な図形概念や性質を理解する。  
(イ)：図に表現したり、正しく作図したりする能力を身に付ける。  
(ウ)：図形についての知識及び技能を活用する能力を伸ばす。
- 〔論理的な思考力の育成について〕  
(ア)：図形に対する直観や洞察の能力を伸ばす。  
(イ)：数学的な推論の理解と論理的に表現する能力を伸ばす。

#### ③ 「関数」

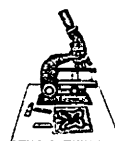
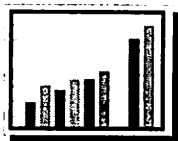
- 〔関数と表・式・グラフについて〕  
(ア)：関数についての基礎的な概念や性質を理解できるようにする。  
(イ)：表、式、グラフを相互に関連付けて関数について調べる能力を伸ばす。
- 〔関数を用いて事象をとらえ説明することについて〕  
(ア)：関数を活用し説明する能力を伸ばす。  
(イ)：関数的な見方や考え方をを用いて事象をとらえる態度を養う。

#### ④ 「資料の活用」

- 〔不特定の事象を取り扱うことについて〕  
・全体を把握することが困難だったり、偶然に左右されたりする不特定の事象も、数学の考察の対象であることを実感を伴って理解できるようにする。
- 〔問題の解決に取り組むこと〕  
・ヒストグラムを作ったり、代表値や確率を求めたりできるようにすることも大切であるが、これらを具体的な事象にかかわる何らかの予測や判断を行うために用いることができるようにすることも重要です。
- 〔対象をとらえ説明すること〕  
・日常生活や社会における問題を取り上げ、それを解決するために必要な資料を収集し、コンピュータなどを利用して処理し、資料の傾向をとらえ説明するという一連の活動を生徒が経験することが必要です。

## 理科

### ◎新学習指導要領の目標



(小学校)

自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。



改訂点：目標に「実感を伴った」という文言が加筆されました。

(中学校)

自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察・実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに、自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

改訂点

①「進んでかかわり」

従前の「関心を高め」より、自ら学ぶ意欲を重視した表現になりました。

②「科学的に探究する能力の基礎と態度」

従前の「科学的に調べる能力と態度」より科学的に探究する活動を重視し、高等学校の目標にある「科学的に探究する能力と態度を育てる」との接続を明確にしました。

### 1 理科の改訂のポイント

(1) 系統性の重視と発達段階を考慮した学習内容が重視されました。

学習内容の系統性や小・中学校との一貫性を重視して、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」という4つの概念(内容)の柱を軸に、多くの学習内容が追加されました。

(2) 科学的に探究する能力の基礎と態度を育成することが重視されました。

小学校では中心的に育成する問題解決の能力として、第3学年で「比較」、第4学年で「要因抽出・関係付け」、第5学年で「条件制御」、第6学年で「推論」に重点が置かれました。これらの能力をさらに高め、中学校では、特に、「結果を分析して解釈する能力」の育成に重点を置いた指導をしていく必要があります。

そのための方法として、問題の発見、実験の計画と実施、器具の操作、記録、データの処理、グラフ化、モデルの形成、規則性の発見など、科学的に探究する活動を行うことが必要です。

(3) 科学的な思考力・判断力・表現力を育成するために、言語活動が重視されました。

実験・観察の結果を整理し考察する学習活動や、科学的な概念を使って考えた内容を班や学級全体へ説明したりする学習活動(活用する学習活動)を充実させていく必要があります。

### 2 これからの理科教育に求められるもの

知識・技能重視の理科から



科学的な見方・考え方重視の理科へ

それぞれの学年で育成する資質や能力を明確にするとともに、日常生活との関連を図りながら、問題解決的な学習の過程を意図的、積極的に進めましょう。

実感を伴った理解として、体験を通じた観察、実験をより一層充実させていきましょう。



### 3 指導の改善点のポイント

#### (1) 科学的に探究するプロセスを大切にしましょう。

- 見通しや目的意識をもたせましょう。
  - ・ 演示実験を見る場面・「これは○○かな？」と考えさせましょう。
  - ・ 自然の事象・現象の要因を予想する場面・・予想した理由を書かせましょう。
  - ・ 自分たちで観察・実験の計画や検討をする場面
    - ・・思考の過程を重視しましょう。
- イメージをもたせるための工夫をしましょう。
  - ・ モデルを作らせましょう。
  - ・ 絵や図などを書かせましょう。



#### (2) 実験・観察の技能を確実に育てましょう。

- 顕微鏡やアルコールランプ、電流計の使い方を確認しましょう。
- グループでの実験では、傍観者をつくらないようにしましょう。
- 一人一実験も効果があります。



#### (3) 日常生活に関連させましょう。

- 身の周りの事象から学習を始めましょう。
  - ・ 導入での演示実験や課題を把握するときに、身の回りの事象を提示しましょう。
- 日常生活で使っているものを「ものづくり」に利用しましょう。
- 学習した内容と関連ある事象を大切にしましょう。



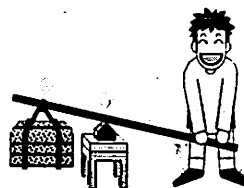
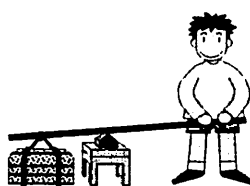
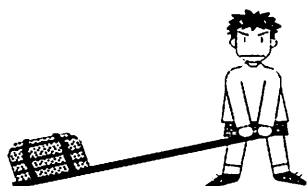
### 4 理科を実施するにあたってのQ&A

科学的な言葉や概念を使用するとは、どんなことですか。

今回の改訂において、各教科で言語活動を充実することは重要な視点であり、科学的な思考力や表現力の育成を図る観点からもより充実した指導が求められます。

また、科学的な用語については、言語活動の基盤となることから、正しく理解させる必要があります。科学言語と日常言語には違いがありますので、普段使っている言葉（日常言語）を使いながら、徐々に科学言語に変えていくことが大切です。

例えば「回路」という用語ですが、授業の最初に「回路」という言葉を教えればそれでよいというわけではありません。実験を進めながら試行錯誤しているうちに児童生徒が輪のようになっていくと明かりがつくことに気づき、それを「回路」という用語としておさえていくといったことです。そして、その後の学習では、「回路」という言葉を使って実験の結果を説明できるようになるということです。



## 外国語（英語）

### ◎新学習指導要領の目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

→「読むこと」、「書くこと」が明示されました。

#### 1 英語科の改訂のポイント

- (1) 「聞くこと」「話すこと」だけでなく、「読むこと」「書くこと」を加えて4技能を総合的に育成する指導の充実を図る。
- (2) 教材の題材の例として伝統文化と自然科学を追加し、英語で発信することができる内容の充実を図る。
- (3) 4技能の総合的な指導を通して、コミュニケーション能力を育成するとともに、文法指導を言語活動と一体的に行うよう改善を図る。
- (4) 小学校における「英会話学習」を踏まえて目標や内容の改善を図り、高等学校やその後の生涯にわたる英語学習の基礎を培う。

具体的には、①授業時数の増加（各学年105時間→140時間へ）

②語数の増加（900語程度まで→1200語程度へ）

③文法事項等の指導内容は、概ね従来のまま。

④「はじめ規定」が改められ、各学校がそれぞれの創意工夫を生かした特色ある授業を実施することが可能。



#### 2 これからの英語教育に求められるもの

音声によるコミュニケーションの重視 ⇒ 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4つの技能をバランスよく育成

「聞くこと」や「読むこと」で得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう、4技能を総合的に育成する指導を充実させていきましょう。

#### 3 指導の改善点のポイント

○既習の内容を繰り返して指導することで、一層の定着を図りましょう。

- ・1単位時間ではなく、3年間を通してバランスよく。
- ・実態に応じて、教師が創意工夫を。
- ・第2、3学年では、前学年までに学習した内容を繰り返し指導し定着を。

○コミュニケーションを継続しようとする積極的な態度を育成しましょう。

- ・場面の設定に工夫をしながら幅広く言語活動を。
- ・文法はコミュニケーションを支えるものにとらえ、言語活動と効果的に関連付けて。
- ・つなぎ言葉、身振り手振り、相づち等を用いるなど、いろいろな工夫を。

○小学校の「英会話学習」と中学校の英語学習との円滑な接続を図りましょう。

- ・発音と綴りとを関連付けて指導を。
- ・特に、第1学年では、小学校で育成された素地を踏まえて。

#### 4 英語科を実施するにあたってのQ&A

「文型」に替えて「文構造」という用語を用いたのは、なぜですか。

文を「文型」という型によって分類するような指導に陥らないように配慮し、また、文の構造自体に目を向けることを意図して、より広い意味としての「文構造」を用いています。

# 音楽

## ◎新学習指導要領の目標（小学校）

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

### 1 音楽科の改訂のポイント

#### (1) 「歌唱」「器楽」「音楽づくり」

小学校と中学校の記述をそろえ、9年間の学習の連続性をもたせることや、各活動の相互のかかわりが明確にされました。

#### (2) [共通事項]

「歌唱」「器楽」「音楽づくり」「鑑賞」、それぞれの活動の支えとなるものとして位置づけられました。思考・判断する力の育成に関わると考えられます。

#### (3) 「音楽づくり」と「鑑賞」の充実

音楽をつくるためには、音楽がどんなふうに行っているかをよく聴き取ることが大切で、よく聴き取るためには、実際に自分で音楽をつくる経験が大きな助けとなります。

#### (4) 言語活動の充実

聴き取ったことを言葉で表すことの重要性について触れられています。感じたことを仲間や先生と共有するための方法の一つです。

#### (5) 我が国の音楽の指導の充実

「和楽器を含めた我が国の音楽」の鑑賞や、取り扱う楽器のひとつの選択肢として和楽器が示されるなど、我が国の伝統と文化を大切にする姿勢が現れています。

### 2 これからの音楽教育に求められるもの

自分の思いや意図を音や音楽を通して、お互いに伝えあう活動が、「A 表現」「B 鑑賞」の中でなされ、この関連を十分に図る学習活動を計画し、展開することが大切です。また、[共通事項]では、いずれの学習活動においても必要な能力が示されていますが、そのみを授業で取り扱うことではなく、学習活動の中で音楽活動を支えるものとして扱います。[共通事項]に示されている内容を、楽曲を通し感じ取る活動や、また、共通事項を生かした表現を工夫することで「思いや意図」に結び付けていきます。

### 3 指導の改善点のポイント

#### (1) 我が国の伝統と文化についての学習を大切にしましょう。

##### ○「和楽器」を含めた「我が国や郷土の音楽」を大切にしましょう。

- ・楽器や楽曲との出会いを工夫しましょう。
- ・和楽器の奏法や音色や音程の変化などの面白さが感じ取れるようにしましょう。
- ・「和楽器」の取り扱いや、「我が国や郷土の音楽」の鑑賞、また、「共通教材」を用いて我が国の音楽の指導を一層充実させていきましょう。

#### (2) 思いや意図をもって表現する力を育てましょう。

##### ○感じ取ったことや気付いたことを共有させましょう。

- ・感じたことを言葉や体で表現したり、絵や音で表現したりするなど、多様な活動を取り入れましょう。
- ・友達とお互いの表現を聴きあったり見あったりする活動を取り入れましょう。

#### (3) 表現や鑑賞の基盤として[共通事項]を位置付け、音楽のよさや面白さを感じとり、思考・判断する力を育成していきましょう。

# 音楽

## ◎新学習指導要領の目標（中学校）

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

目標に「音楽文化についての理解を深め」という文言が加筆されました。

### 1 音楽科の改訂のポイント

#### (1) 目標

目標の中に「音楽文化についての理解を深める」という文言が追加され、我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を深め、我が国の音楽に愛着をもつとともに諸外国の音楽文化を尊重する態度の育成が重視されます。

#### (2) 内容

音や音楽をとらえるための窓口として〔共通事項〕が示されました。これは、歌唱・器楽・創作や鑑賞の活動の支えとなるものです。  
また、目標の改訂に伴い、我が国の伝統的な歌唱や和楽器を用いた表現活動について明確化されるとともに、世代を超えて歌い継がれている我が国の歌曲が共通教材として提示されています。

### 2 これからの音楽教育に求められるもの

- (1) 我が国の音楽文化に愛着をもつとともに、諸外国の音楽文化への理解を深め、尊重する態度を育成する。
- (2) 生徒が感性を働かせて感じ取ったことを基に、思考・判断し、表現する一連の過程を大切に学習を充実させる。

<3つの視点>

感じる対象  
対象→感受

→

思考・判断

→

表現

歌唱・器楽・創作・鑑賞のいずれにおいても同様

- (3) 言語活動により、音楽文化に対する理解を深めていくとともに、音楽のよさや美しさなどを一層深く味わわせ、豊かな情操を育てる。

### 3 指導の改善点のポイント

- (1) 我が国で長く親しまれている歌曲を取り入れることにより、世代を超えてよき音楽文化が受け継がれるよう、歌唱共通教材が示され、各学年において1曲以上含めることとされました。
- (2) 我が国の伝統や文化の教育を充実する観点から、民謡や長唄など伝統的な歌唱の指導を重視することが示されています。
  - \* 声の出し方を真似てみる（オペラと歌舞伎の比較など）
  - \* ゲストティーチャーによる発声の直接指導
  - \* 表現と鑑賞の関連を図った題材を組む  
（聴き取り、特徴を感じ取る → 感じ取ったイメージを実現できるように歌う）
- (3) 3学年間を通じて1種類以上の和楽器の表現活動を通して、伝統音楽のよさを味わうことができるように工夫することが示されました。
  - \* これまでに大切にされてきた姿勢や身体の使い方に配慮する
  - \* 教師やゲストティーチャーの範奏を聴かせ、興味をもたせる
  - \* 歌唱や創作、鑑賞との関連を図る
- (4) 創作では、音を音楽へと構成していく体験を重視するとされています。
  - \* 即興的に音を出しながら音のつながり方を試す
  - \* 作った音楽を5線譜だけではなく、文字、絵、図、記号、コンピュータを用いて、記録の仕方を工夫する
- (5) 鑑賞の領域では、感じ取ったことや考えたことなどを、言葉を用いて表す主体的な活動が重要とされています。
  - \* 音楽のよさや美しさなどについて、言葉で表し、他者に伝えられるようにする
  - \* 音楽の価値を言葉で言い表したり、書き表したりすることを通して、批評を共有したり、共感したりする
- (6) 表現及び、鑑賞の活動の支えとなる指導内容が〔共通事項〕として新設され、音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力の育成を一層重視するとされています。
  - \* 指導計画の中に指導事項と〔共通事項〕を明確に位置付けましょう
- (7) 表現や鑑賞の各活動を通じて音楽に対する知的財産権について、必要に応じて触れるようにするなどの配慮を行うことが示されました。

## 図画工作

### ◎新学習指導要領の目標（図画工作）

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

↓  
目標に「感性を働かせながら」という文言が加筆されました。  
「感性を働かせながら」…児童の感覚や感じ方、表現の思いを一層重視するということが明確にするために示しています。

#### 1 図画工作の改訂のポイント

##### ○ 学習内容の構成の見直しと表現・鑑賞における言語活動の充実

- ・「A 表現」の内容が育成すべき資質や能力ごとに整理され、表現活動及び鑑賞活動において共通に必要な能力を示した〔共通事項〕が新設されました。
- ・生活や社会とのかかわり、ものをつくる楽しさなどの観点から、手や体全体の感覚を働かせて材料や用具などを活用してついたり、身の回りの形や色、環境などから感じ取ったことを伝え合ったりする活動を一層重視しています。
- ・「B 鑑賞」では、よさや美しさを鑑賞する喜びを味わう活動と、感じたことを話したり、友人の話の聞いたりする活動の充実をうたっています。
- ・〔共通事項〕では、形や色を基に自分のイメージをもつことなどを重視しています。

#### 2 図画工作科として児童に身につけさせたいもの

- (1) それぞれの学年で育成する資質や能力を明確にするとともに、指導において児童は自分の感覚や活動を通して形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これを基に自分のイメージを持つことができるよう十分にいきましょう。
- (2) よりよく生きようとする児童の情意の調和的な発達をねらいとして、豊かな情操を引き出す創造活動をしましょう。

#### 3 指導の改善点のポイント

##### (1) 材料を基に造形遊びをする活動では

- ・材料からの発想を豊かにするために材料の種類や量を豊富に用意したり、材料からの発想を深めるために材料の種類や量を少なくしたり指導計画において検討しましょう。
- ・創造的な技能を高めるために、材料や用具の経験を総合的に生かすような題材を構成し、体全体を使って長く並べたり高く積んだりできる場所を工夫しましょう。
- ・活動の様子を写真などの映像に記録すると、評価に役立てることができます。

##### (2) 表したいことを絵や立体、工作に表す活動では

- ・意欲を生かすために、思いのままにクレヨンや絵の具を使うことができ、粘土で自在に形を追究できる環境と時間の確保をしましょう。
- ・構想する力を高めるために、動く仕組みそのものを工夫したり、表現しながら伝えたい思いをふくらませたりするなど、題材の工夫をしましょう。
- ・用具の活用においては、児童の感覚や行為を重視し、用具を使って表し方を工夫している姿や新しい感覚を楽しむ姿などをとらえて、指導と評価に生かしましょう。
- ・児童のイメージをとらえるために、対話をしたりワークシートなどを活用しましょう。

##### (3) 作品などを鑑賞する活動では

- ・児童が造形活動の中で自分や友人の作品などを見ることも鑑賞として、鑑賞活動を幅広くとらえる必要があります。
- ・指導の効果を高めるために鑑賞を独立して行う場合には、その必然性や児童の実態などを十分考慮し、一人ひとりが能動的な気持ちで鑑賞できるように配慮しましょう。

# 美術

## ◎新学習指導要領の目標（美術）

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

目標に「美術文化についての理解を深め」という文言が加筆されました。  
「美術文化についての理解」…改正された教育基本法において  
教育の目標に「伝統や文化を尊重する態度を養う」ことが規定されたことを受け、新たに目標に加えられました。

### 1 美術の改訂のポイント

#### (1) 内容の構成を育成すべき資質や能力ごとに整理

- ・題材の指導の際、発想や構想の能力と表現の技能でのねらいを明確にするために、「A表現」の内容が、発想や構想の項目は「(1) 感じ取ったことや考えたことを基にした発想や構想」と「(2) 目的や機能を考えた発想や構想」の二つが示され、表現の技能の項目では「(3) 発想や構想したことを基に表現する技能」と示されています。
- ・形や色彩、材料などの性質や、それらがもたらす感情を理解したり、対象のイメージをとらえたりするなどの資質や能力を育て、表現や鑑賞の能力を高めることをねらいとして【共通事項】が新設されました。

#### (2) 鑑賞領域の改善

- ・美術文化に関する学習を重視し、3年間を通して指導の充実を図ることが望まれています。
- ・自分なりの思いや考えを説明し合うなどの言語活動を通して、対話による鑑賞方法などによってお互いの意見を交流させる鑑賞活動が求められています。

### 2 美術科として生徒に身につけさせたいもの

それぞれの学年で育成する資質や能力を明確にするとともに、思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動と、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心をもって生涯にわたり主体的にかかわっていく態度を育みましょう。

美術文化の継承と創造への関心を高めるために、自分の思いを語り合うなど作品のよさや美しさを主体的に味わう活動や我が国の美術や文化に関する鑑賞活動を一層充実させていきましょう。

### 3 指導の改善点のポイント

#### (1) 生徒一人ひとりの資質や能力を高めることができる指導計画の作成と題材の設定に努めましょう。

- ・指導計画の作成にあたっては、生徒の学習経験や能力、発達段階等に配慮しましょう。また、各学年の目標や内容、材料体験等の系統性を図るとともに、小学校図画工作科との関連を十分に踏まえるようにしましょう。
- ・題材の設定にあたっては、生徒一人ひとりがその題材のよさや可能性等の価値を理解し、自分の感覚や活動を基に形や色彩、イメージなどを活用して学習ができるよう創意工夫に努めましょう。

#### (2) 美術の基礎的な能力を伸ばす学習指導と評価の充実に努めましょう。

- ・生徒が主題の発想から表現の完成に至る全過程を通して、美術の創造活動の基礎的な能力を自ら獲得していくことができるようにしましょう。
- ・小学校図画工作科の学習経験を踏まえ、多様な材料や用具を準備し、生徒一人一人が主体的に学習できるよう個に応じた指導をしましょう。
- ・鑑賞に充てる授業時数を十分確保し、美術文化に関する学習を重視しましょう。
- ・【共通事項】を意識して、生徒が形や色彩などの性質や感情を理解し、対象のイメージをとらえることができるよう留意しましょう。

#### (3) 学習環境の整備・充実に努めましょう。

- ・学校や地域の行事などとの連携に努め、生徒の活動や作品に対する家庭の理解を積極的に図りましょう。
- ・主体的な表現や鑑賞の能力を育成するために、校内の適切な場所に生徒の作品などを展示し、鑑賞できるように工夫するとともに、美術館などとの連携に一層努めましょう。

# 体 育

## ◎新学習指導要領の目標（小学校）

心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる」という文言が加筆されました。

### 1 体育の改訂のポイント

#### (1) 生涯にわたって運動を行うことを、より一層目指した内容になりました。

生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視し、指導内容の改善を図ることとされました。

#### (2) 指導すべき内容を整理し、体系化を図りました。

学校段階の接続及び発達段階に応じて、指導内容を整理して、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、基礎的な身体能力や知識を身に付け、生涯にわたって運動に親しむことができるように、まとまりを考慮しました。

#### (3) 小学校低学年においては、運動を通して健康の認識をもたせる指導内容になりました。

心身の発育・発達と健康、生活習慣病などの疾病の予防、保健医療制度の活用、健康と環境、傷害の防止としての安全の内容の改善を図りました。「基本の運動」は、高学年へのつながりが明確ではなかったので「体づくり運動」として全学年において実施することになりました。

### 2 これからの体育科教育に求められるもの

運動する児童とそうでない児童の二極化傾向や体力低下が深刻な問題なので、すべての運動領域で適切な運動経験を通して、一層の体力向上を図ることができるよう指導の在り方を改善することが大切です。保健においては、自らの健康管理に必要な情報を収集して判断し、行動を選択することが求められます。

### 3 指導の改善点のポイント

#### (1) 4年間をひとまとめとして系統的かつ、体系化しましたので12年間（小・中・高校）を見通して指導しましょう。

- ・小学校1年生～4年生までは「多様な動きをつくる運動（遊び）」を行わせ「さまざまな基本的な動き」を身につけさせましょう。
- ・小学校5年生～中学校2年生までは、「多くの領域の運動」を体験させましょう。
- ・「体づくり運動」以外のすべての内容は、低・中・高学年のいずれかの学年で指導しましょう。

#### (2) 各単元において、身に付けさせたい内容を具体的に示しましょう。

- ・学習のねらい、学習過程を授業に組み込みましょう。

#### (3) 学校での運動の実践から家庭や学校での日常化につなげましょう。

- ・体を動かして遊んだり、運動したりして「動ける体づくり」を心がけましょう。

### 4 体育を実施するにあたってのQ&A

#### 「体づくり運動」とはどのようなものですか？

以前の指導要領では「基本の運動」として1年生から4年生で取り上げていましたが、身に付けるべき内容がわかりにくいということで、「体づくり運動」として小学校1年生～高校3年生の全学年で指導することとされました。児童自身が動きを獲得して、日常生活の中で対応できるようにします。今までは、準備運動的に扱われていたもので他の領域であまり出てこない運動を取り上げます。



## 保健体育

### ◎新学習指導要領の目標（中学校）

心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる」という文言が加筆されました。

#### 1 保健体育の改訂のポイント

- (1) 生涯にわたって運動を行うことを、より一層目指した内容になりました。  
生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視し、指導内容の改善を図ることとされました。
- (2) 指導すべき内容を整理し、体系化を図りました。  
学校段階の接続及び発達段階に応じて、指導内容を整理して、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、基礎的な身体能力や知識を身に付け、生涯にわたって運動に親しむことができるように、まとまりを考慮しました。
- (3) 保健分野では、新たに「自然災害に伴う傷害の防止や医薬品について」という内容が加わりました。
  - ・二次災害によって生じる傷害があること（3年生）
  - ・応急処置には心肺蘇生法があること（3年生）
  - ・医薬品は正しく使用すること（3年生）

#### 2 これからの保健体育科教育に求められるもの

運動する生徒とそうでない生徒の二極化傾向や体力低下が深刻な問題なので、すべての運動領域で適切な運動経験を通して、一層の体力向上を図ることができるよう指導の在り方を改善することが大切です。保健においては、自らの健康を適切に管理し改善していく思考力・判断力などの資質や能力を育成することが求められます。

#### 3 指導の改善点のポイント

- (1) 4年間をひとまとめとして系統的かつ、体系化しましたので12年間（小・中・高校）を見通して指導しましょう。
  - ・小学校5年生～中学校2年生までは「多くの領域の運動を体験させましょう」
  - ・中学校3年生～高校3年生までは「少なくとも一つの運動やスポーツを継続させて行わせましょう」
  - ・「体づくり運動」「体育理論」以外のすべての領域は、1，2年生のいずれかの学年で指導しましょう。
  - ・3年生では、自ら探究したい領域として「体づくり運動」「体育理論」を除いた、すべての領域のなかから選択させて指導しましょう。
- (2) 各単元において、身に付けさせたい内容を具体的に示しましょう。
  - ・学習のねらいや学習過程を授業に組み込み、生徒に提示しましょう。
- (3) 「体づくり運動」の実践を充実させましょう。
  - ・「体づくり運動」として小学校1年生～高校3年生の全学年で指導することとされました。動きを獲得して、日常生活の中で対応できるようにします。今まで準備運動的に扱われていたもので他の領域であまり出てこない運動を取り上げます。
- (4) 武道では「見取り稽古」を指導しましょう。
  - ・「見取り稽古」とは、武道特有の練習方法で他人の稽古を見て、相手との距離の取り方や相手の隙をついて勢いよく技を仕掛ける機会、技のかけ方や武道特有の気合いを学ぶことです。

#### 4 保健体育を実施するにあたってのQ&A

「体育理論」は、何をどのように指導するのか？

各運動に関する領域に共通する内容やまとまりで学習した方が効果的な内容を扱います。その内容は、運動やスポーツが多様であること（1年生）、運動やスポーツの意義や効果（2年生）、文化としてのスポーツの意義（3年生）をそれぞれ各3時間以上指導します。

※思考・判断とは、これまで学習した内容（知識）を学習場面に適用し、応用することです。

# 家庭

## ◎新学習指導要領の目標（小学校）

衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にすることをはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

基礎的な知識と技能を身に付け → 基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け  
家庭生活への関心を高める → 家庭生活を大切にすることをはぐくみ  
生活を工夫しよう → 生活をよりよくしよう となりました。

### 1 家庭科の改訂のポイント

(1) 中学校との系統性と連続性を図り、生涯にわたる家庭生活の基盤となる能力と実践的な態度を育てる観点から、8つの内容を4つの内容に再構成しました。

例)・住まい方の学習における、「暑さ・寒さ、通風・換気及び採光」については、小学校で全員に学習させることになりました。

・「内容8 家庭生活の工夫」が、「内容A 家庭生活と家族」の中に入りました。

(2) ガイダンス的な内容と学習全体を貫く視点が設定されました。

・第4学年までの学習を踏まえての学習の見通しを立てさせるため、【内容A項目(1)】「自分の成長と家族」を設定し、第5学年の最初に学習します。また、家族の一員として成長する自分を自覚し、家庭生活を大切にすることをはぐくむことを目指し、「自分の成長」が設定されました。

(3) 社会の変化に対応する視点から内容が改善されました。

・少子高齢化の視点から、「自分の成長と家族」の項目を設定。  
・食育推進の視点から、体に必要な栄養素の種類と働きを中学校から移行。  
・持続可能な社会の構築の視点から、「身近な消費生活と環境」を設定。(身の回りの生活における金銭の使い方やものの選び方、環境に配慮した物の活用などの学習について、実践的な学習活動を設定)

(4) 言語を豊かにし、知識・技能を活用して生活の課題を解決する能力を育む視点を重視します。(言語活動の充実)

・衣食住などの生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動の充実。  
・生活の課題を解決するために、言葉や図表などを用いて考えたり説明したりする学習活動の充実。

### 2 これからの家庭科教育に求められるもの

生涯にわたる家庭生活の基盤となる能力や態度をはぐくむこと

・家庭生活を総合的にとらえる視点から、家族の生活と関連させながら衣食住の内容を取り扱きましょう。  
・他教科などとの関連を明確にし、連携を図りましょう。

### 3 指導の改善点のポイント

○学習したことを家庭生活に活かし、継続的に実践させましょう。

(家庭と連携を図りましょう)

・授業参観や学年だより、学級だよりを通して家庭に情報を提供しましょう。  
・家庭での実践が計画されていることを事前に伝えたり、協力を依頼しましょう。  
・家族をはじめ近隣の人々の協力を得て、衣食住に関する知恵や生活技術などを学ぶ機会を設けましょう。

## 技術・家庭

### ◎新学習指導要領の目標（中学校）

生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

・目標は従来と同様であり、基本的な考え方は変わっていません。

### 1 分野の目標の改善

#### ①技術分野の目標

・ものづくりを支える能力などを一層高めるとともに、よりよい社会を築くために、技術を適切に評価し活用できる能力と実践的な態度の育成を重視し、次のように改めました。

ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。

#### ②家庭分野の目標

・自己と家庭、家庭と社会とのつながりを重視し、これからの生活を展望して、よりよい生活を送るための能力と実践的な態度の育成を重視し、次のように改めました。

衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

### 2 技術・家庭科の改訂のポイント

#### ①内容構成の改善

・技術分野では、現代社会で活用されている多様な技術を4つの内容に整理し、すべての生徒が履修することになりました。家庭分野では、小学校家庭科との体系化を図り、中学生としての自己の生活の自立を図る視点から内容を構成しました。

#### ②履修方法の改善

・各分野ともにAからDの4つの内容をすべての生徒が履修します。  
・家庭分野においては、「生活の課題と実践」に関する指導事項を設定し、次の3つの事項の中から、1又は2事項を選択して履修します。

家庭分野【内容A項目（3）事項エ】家族関係又は幼児の生活についての課題と実践  
【内容B項目（3）事項ウ】食生活についての課題と実践  
【内容C項目（3）事項イ】衣生活又は住生活についての課題と実践

・小学校での学習を踏まえ、中学校での3学年間の学習の見通しを立てさせるガイダンス的な内容を設定し、第1学年の各分野の最初に履修します。

技術分野【内容A項目（1）】生活や産業の中で利用されている技術

家庭分野【内容A項目（1）】自分の成長と家族

#### ③社会の変化に対応する視点からの内容の改善

・技術分野においては、持続可能な社会の構築やものづくりを支える能力の育成の重視など、社会の変化に対応する視点から改善を図っています。  
・家庭分野においては、少子高齢化や食育の推進、持続可能な社会の構築など、社会の変化に対応する視点から改善を図っています。

#### ④言語活動の充実

・実習等の結果を整理し考察する学習活動の充実を図ります。  
・言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりする学習活動の充実を図ります。

### 3 これからの技術・家庭科教育に求められるもの

#### ◎社会において生徒たちが自立的に生きる基礎を養いましょう。

・望ましい生活習慣を身に付けるとともに、勤労の尊さや意義を理解させましょう。  
・家族への敬愛の念を深め、家庭や地域社会の一員としての自覚をもって自分の生き方を考え、生活をよりよくしようとする態度を育成しましょう。

# 生活

## ◎新学習指導要領の目標（小学校）

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

※現行のまま維持、理念は変わりません

### 1 生活科の改訂のポイント

- (1) 一人一人の児童が自分自身のよさや可能性について理解を深めることを重視。  
身近な人々、社会、自然とかかわる活動を充実させることによって自分自身の理解を図る。
- (2) 気付きの質を高め、活動や体験を一層充実するための学習活動を重視。  
活動や体験を繰り返したり、他者と共に行動したりすることで、気付きの質を高め、そうすることによって、科学的な見方や考え方の基礎を養う。
- (3) 安全教育や生命に関する学習活動を充実させ、異年齢での教育活動を一層推進。  
通学路の様子を調べ、安全を守ってくれる人に関心をもったり、自然に直接触れる体験や動物と植物の双方を自分たちで継続的に育てたりして学習活動を充実させ、幼児教育との連携も図る。

### 2 これからの生活科教育に求められるもの

**知的な気付きを大切にし、気付きの質を高める指導**

教師に求められる基本的な仕事は、児童の多種多様な気付きに、まず教師自身が気付くこと。そして、その気付きを意味付けられるように促したり、共有できるように働きかけたりすることで気付きを学びにつなげようとする配慮が教師に求められることである。

### 3 指導の改善点のポイント

- (1) 気付きの質を高めることを中心にした学習を進めましょう。
  - 振り返りの活動として言葉などによる表現活動を位置付けましょう。  
「たとえる学習活動」  
「ぶどうみたいな実を見つけたよ」「みかんのようなおいがしたよ」などと、体験したことをこれまでの体験につなげて表現します。  
教師の「何みたいに？」という言葉かけ、働きかけも重要です。
  - 他者と伝え合い交流する活動を大切にしましょう。  
体験したことや調べたことを伝え合う中で、自分が発見したと友だちが発見したこととを比べ、似ているところや違うところを見つけましょう。
- (2) 中学年以降の理科の学習を視野に入れて、自然の不思議さや面白さを実感する学習活動を充実させましょう。
  - 例えば、「動くおもちゃを工夫して作って遊ぶ活動」「ものを水に溶かして遊ぶ活動」「風を使って遊ぶ活動」等を行うよう配慮し、試行錯誤の活動を繰り返し行いましょう。
- (3) 入学直後は、合科的な指導を展開することが適切です。
  - 第1学年入学当初のカリキュラムをスタートカリキュラムとして改善しましょう。  
児童の思いや願いを生かし、出会わせ方を工夫することで、意欲や主体性を高めるからです。

### 4 生活科を実施するにあたってのQ & A

生活科を中心として第1学年で実施するスタートカリキュラムとは、具体的にどのようなものでしょうか。

具体的には、生活科において学校を探検する学習活動を行い、そこで、発見した事柄について、伝えたいという児童の意欲を生かして国語科、音楽科、図画工作科においてそれぞれのねらいを踏まえた表現活動を行うなど、合科的に扱うことが考えられます。

## IV 指導案作成上のポイントとその実践例

### 1 一般的な指導案に書かれている項目と内容

#### 1 単元名（題材名）

#### 2 単元の目標

- ・学習指導要領をもとにして記入します。特に、その学年の指導内容との整合性を図ることが大切です。
- ・観点別に分けて書くことが多いようです。

#### 3 単元設定の理由

校内の判断で（１）～（３）の順序が変わることもあります。

##### （１）単元観

- ・指導内容に関する系統性や単元間の関連性や児童生徒は、この単元を通して何を学ぶのかを記入します。
- ・児童生徒にとって、どのような意味をもつのか、教師の思いを記述します。
  - 教材の教育的価値
  - 児童生徒に学んでもらいたい価値内容

##### （２）児童生徒の実態

- ・本単元内容に関するレディネスの状況や単元内容に関する生活経験などを記述します。（一般的な児童生徒の様子は、記述する必要ありません）

##### （３）指導観（研究主題との関連が書かれることもあります。）

- ・今回の単元構想や授業を指導するために必要な考え方（児童生徒の考えを引き出す活動など）を記述します。
- ・児童生徒が目標を達成するための具体的な手だてを書きます。
  - 興味・関心・意欲を引き出すために何をしたらよいか。
  - 考える力を伸ばすために何をしたらよいか。
  - 表現力をつけるために何をしたらよいか。
  - 知識や技能を身に付けさせるために何をしたらよいか。

☆（１）で、児童生徒に身に付けさせたいことを示し、（２）で現在の児童生徒に何が欠けているかを示すと、（１）で身に付けさせるために何をどのように指導するかが（３）に示されます。

☆（３）指導観（研究主題との関連）で示されたことを中心に参観者は授業を見ることになります。（３）が展開の柱となります。

○○科学学習指導案 平成○年○月○日（ ）○校時 ○年○組（男子○名、女子○名） 指導者 ○○ ○○				
1	単元名（題材名）			
2	単元の目標			
3	単元設定の理由			
	（１）単元観（教材観）			
	（２）児童生徒の実態			
	（３）指導観（研究主題との関連）			
4	人権教育のチェックポイント			
5	単元の指導計画			
6	本時の指導			
	（１）題目			
	（２）本時の目標			
	（３）展開（別紙１）			
	（別紙１） ◎自校のチェックポイントより			
	学習過程	学習活動	時間 経過	教師のかかり 評価
	（別紙２）ワークシート			
	ものあたままり方が目でみてわかる工夫をしよう			

#### 4 人権教育のチェックポイント

- ・自校のチェックポイントより、重点化したい項目を書きます。

#### 5 単元の指導計画（○時間扱い）

- ・各時間の流れを示します。  
（時系列表記の他、イメージ図で表記することもあります）
- ・本時がどの時間になるのかを明記します。
- ・評価計画を別紙で貼り付ける場合もあります。

#### 6 本時の指導

(1) 題目「 \_\_\_\_\_ 」

##### (2) 本時の目標

- ・学習のゴールを明らかにし、児童生徒がその時間で最終的に何ができるようになればよいかについて明記します。
  - ・語尾は「～できる」「～になる」「～知る」等にするとよいと思います。  
できるだけ具体的に記述するようにします。
- ※特別支援学級や通級指導教室の場合は、個別の目標を明記します。

##### (3) 展開

- ・本時の学習指導案が、読んだ人に分かるように記述します。
- ・本時のねらいを明確にして、児童生徒に分かるように記述します。
- ・実験について文章で記述することが難しい場合は、図で表記します。

[ 指導事例 1 ]

◎自校のチェックポイントより ※⑥

学習内容	学習活動	時間・形態	教師のかかわり	評価(方法)
※①	※③		※④	※⑤

[ 指導事例 2 ]

◎自校のチェックポイントより

学習過程	学習活動	時間・形態	指導上の留意点	準備・資料	評価(方法)

[ 指導事例 3 ]

◎自校のチェックポイントより

具体目標(ねらい)	学習活動	時間・形態	教師の指導・支援	評価の観点				評価(方法)
※②				関	思	技	知	

##### ※①の学習内容

- ・簡潔に何について学ぶかについて書きます。

##### ※②学習のねらい、具体目標

- ・児童生徒の学習時の目標を書きます。語尾は、「～できる」「～になる」「～する」「～を知る」等になります。

### ※③学習活動

- ・予想される反応を書きます。語尾は「～する」「～について考える」などになります。また、予想される反応をここに書くこともあります。
- ・指導形態や時間などが書かれることもあります。

### ※④教師の指導、指導上の留意点、支援

- ・教師の立場からの留意点が書かれます。
- ・語尾は「～を促す」「～を助言する」「～するように話す」「～させる」「～する」等になります。
- ・配慮を要する児童生徒にどのように具体的な支援をするかが書かれることもあります。
- ・個々の児童生徒への対応や、学習に立ち止まっている児童生徒への援助の仕方を具体的に書きます。

### ※⑤評価規準

- ・語尾は「～しようとしている」（関心・意欲・態度）など。
- ・1単位時間においては、本時のねらいに対して評価する場面は、一つか二つに絞ったほうが良いでしょう。
- ・評価規準だけを記述するのではなく、評価方法について書くとい良いでしょう。

### ※⑥自校のチェックポイントより

- ・自校のチェックポイントに照らして、授業の中で個をより深くみていこうとする教師側の視点を書きます。語尾は「～を把握する」等になります。

### その他 資料

- ・必要に応じて資料（読み物資料）などを追加します。

## 2 指導案を書くときに留意すべき点

### 1 全体に1本の筋を通すことが大切です。

- ・目標、指導観、展開、評価の整合性を考えましょう。
- ・学習指導要領、単元のねらい、本時のねらいの整合性を考えましょう。
- ・単元観（教材観）、児童生徒の実態、指導観の整合性を考えましょう。
- ・常に、「児童生徒に何を身に付けさせたいのか」を意識して作成しましょう。

### 2 自分の考えを整理して作ることが大切です。

- ・指導するための目標、手段、児童生徒の反応などを整理して指導案を作ります。そのためには、事前の実験や児童の考えを把握することが重要となります。
- ・授業の目玉になるところは何かを意識することが大切です。

### 3 平易な言葉で（自分のことば）で書きます。

- ・インターネットや他の実践記録集の文章をそのまま使っても、自分が思うところが表現できません。指導案は、授業を見てもらう人に分かってもらうように書くもので、自分が伝えたいことを的確に読み手に伝わる表現を工夫して下さい。

### 4 一文は、短い方がよいとされています。

- ・文章が長くなると、いいたいことがぼけてしまい、理解しにくくなることがあります。長文は2文に分けたり、重複している部分を省いたり、くどい表現を避けたりします。

参考資料

指導案の書き方（栃木県総合教育センター研修部）



# 1 中学校1年国語科 読書を楽しもう 「さんちき」

- 1 単元名 読書を楽しもう  
 教材名 さんちき (東京書籍1年)

- ・学習指導要領をもとに記入する。特に、その学年の指導内容との整合性を図ることが大切である。
- ・観点別に分けて書く。しかし、5観点すべてに目標を持つのではなく、目標を精選し、重点化する。

## 2 単元目標と評価規準

### (1) 単元の目標

国語への関心・意欲 ・態度	・いろいろなものの見方や考え方に触れ、小説を読む楽しさを味わうことができる。
読むこと	・文章の展開を確かめながら主題を考えたり要旨をとらえたりすることができる。 ・文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広げることができる。
言語についての知識 ・理解・技能	・語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して読むことができる。

### (2) 評価規準

国語への関心・意欲 ・態度	・主人公と自分とを重ね合わせたり比べたりしながら、小説を楽しもうとしている。
読む能力	・場面分けやそれぞれの場面での出来事をまとめている。 ・根拠となる叙述をもとに自分の考えを述べている。 ・登場人物のせりふからその人物の職業観や人生観を読み取っている。
言語についての知識 ・理解・技能	・注にあげられている語句・事柄について、文脈に即して理解している。

- ・指導内容に関する系統性や単元間の関連性、子どもたちはこの単元を通して何を学ぶのかを記入する。
- ・子どもたちにとって、どのような意味を持つのか、教師の思いを記述する。  
 例 教材の教育的価値・児童生徒に学んでもらいたい価値内容

## 3 単元設定の理由

### (1) 単元観

「さんちき」は、中学校で最初の小説の学習教材である。主人公の三吉は生徒と同年代であり、生徒にとっては親しみやすい内容になっている。三吉と自分とを重ね合わせたり比べたりしながら読み進めることによって、小説を読む楽しさを味わえるようにしていきたい。また、主題である前向きな三吉の姿、親方の職業観や人生観を通して、生徒がこれからの生き方を考えるよいきっかけになるであろうと考える。

・本単元内容に関するレディネスの状況や単元内容に関する生活経験などを記述する。

(一般的な児童生徒の様子は、記述する必要はない。)

## (2) 生徒の実態

中学校に入学してから3ヶ月が過ぎようとしており、中学校生活にも慣れてきたようだ。7月初旬には東京班別自主見学を控え、少しずつ落ち着いてきた中学校生活の中でこれからの自分の生き方を考える時期になってきている。

毎朝10分間の読書の時間では、夢中になって本を読む姿が多く見られる。また、読書の時間ばかりではなく、休み時間等のちょっとした時間にも読書を楽しんでいる生徒もいる。比較的本を読むということに抵抗がないように思われる。そこで、読書を楽しみ、そのなかでいろいろなものの見方や考え方に触れながら生徒のこれからの生き方を考えるきっかけづくりをしていきたいと考える。

・今回の単元構想や授業を指導するために必要な考え方(子どもの考えを引き出す活動など)を記述する。

・児童生徒が目標を達成するための具体的な手だてを書く。

例 興味・関心・意欲を引き出すためには何をしたらよいのか。

考える力を伸ばすために何をしたらよいのか。

表現力をつけるために何をしたらよいのか。

知識や技能を身に付けさせるために何をしたらよいのか。

## (3) 指導観

まず、通読して小説の時代背景や場所、職人の世界などという場面設定から、注を参考にして語句や用語を確認する。主人公の三吉は生徒と同年代であり、親しみやすい内容になっているが、幕末の京都という設定は生徒には分かりづらいのでつまづかないようにしたい。そして、具体的な場面分けとそれぞれの場面における出来事について整理をし、文章の展開を確認していく。三吉が仕事場にろうそくをともす場面から物語が始まり、三吉がろうそくを吹き消す場面で終わる作品展開にも触れ、構成の工夫などにも気づかせることで読書の楽しみ方を学ばせたい。

次に、主な登場人物である三吉と親方の性格や考え方を通して主題を読み取る。三吉は生徒たちと同じ13歳であることを確認して親近感を持たせるとともに、三吉と自分とを重ね合わせたり比べたりしながら読み進めさせたい。また、親方のせりふの部分に注目して、人情味ある親方の人物像や職業観、人生観について読み取らせていきたい。そして、三吉から見た親方、親方から見た三吉、2人の関係を押さえながら50年後の三吉について想像したことを手紙の形式で書く。

本時では、想像して書いたものを相互に読み合い、感想を交流していく。50年後の三吉について想像したことを書くことで作品の世界を豊かに味わい、それを読み合うことで様々な考えに触れ、視野を広げさせていきたい。

## 4 人権教育のチェックポイント

この単元の指導においては、チェックポイントの④d「発表の苦手な生徒や控えめな生徒でも、自信をもって質問や発言をできるような雰囲気づくりをする。」に重点を置き、机間指導や声かけを通して一人一人の学習状況をしっかりと把握していきたい。

- ・各時間の流れを示す。
- ・本時がどの時間になるのかを明記する。

## 5 指導計画と評価計画（別紙）

## 6 本時の指導

### （1）題材名

「さんちき」

- ・学習のゴールを明らかにし、子どもたちが、その時間で最終的に何ができるようになればよいかについて明記する。
- ・語尾は「～できる」「～になる」「～知る」等にするとうい。できるだけ具体的に記述するようにする。

### （2）目 標

50年後の三吉を想像して書いた手紙を相互に読み合い、感想を交流することで、さまざまな三吉像を考えることができる。

### （3）評価規準

国語への関心・意欲 ・態度	・手紙を読み合うことに興味を持ち、進んで友人の手紙を読み、感想を書いている。
読む能力	・友人の書いた手紙を読んで、内容に即した感想を書いている。 ・感想を交流することで、さまざまな三吉像を考えている。

### （4）展開（別紙）

学習過程を明確にし、自ら課題を設定するなど主体的な学びを大切にす。

5 指導計画と評価計画（5時間扱い）

1時間1時間でのねらいをしっかりと押さえる。

時	ねらい	主な学習活動	評価の観点					評価規準と評価の方法 (下線はA基準)	教師の支援および 指導上の留意点
			関	話聞	書	読	言		
1	全文を通読し、内容をつかむことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品を通読し、話の展開をつかむとともに、印象に残ったところを感想にまとめる。</li> <li>意味の分からない語句や事柄について注や資料を参考にして確認する。</li> </ul>	○				○	(関) 観察・ノート ・登場人物の行動や考え方、 <u>生き方に関心を持ち、感想をまとめている。</u> (言) 観察・ワークシート ・意味の分からない語句や事柄について、注や資料を活用しながら <u>文脈に即して理解している。</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>印象に残った場面を挙げさせたり、三吉の行動や題名に着目させる。</li> <li>意味の分からない語句や事柄を含む文を抜き出し、どの意味が適切か考えさせる。</li> </ul>
2	学習の系統性の重視 1学年 「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読む」 場面に分けて文章の展開を押さえることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面分けをし、それぞれの場面における出来事を整理する。</li> </ul>				○	(読) 観察・ワークシート ・場面の変化に <u>ろうそくの灯が効果的に使われていることに気付いて場面を分けている。</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ろうそくの灯がともされて物語が始まり、灯が消えることで物語が終わることに気付かせる。</li> </ul>	
3 4	登場人物の生き方や考え方を考えることができる。	言語活動の充実 どのような言語活動をどんな手順で行っていくか明確にする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>三吉の人物像について考える。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li><u>三吉に関する叙述や言動を根拠にした的確に読み取っている。</u></li> </ul> (読) 観察・ノート	<ul style="list-style-type: none"> <li>かぎとなる三吉に関する表現を具体的に示す。</li> </ul>	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>親方の人物像や職業観、人生観を話し合う。</li> <li>50年後の三吉を想像して手紙の形式で書く。</li> </ul>			◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>親方のせりふをもとに人物像などを的確に読み取っている。</li> <li>(書) ワークシート</li> <li>親方と三吉の人物像や考え方、2人の関係をつかんで手紙を書いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かぎとなる親方のせりふを具体的に示す。</li> <li>三吉から見た親方、親方から見た三吉について考えるように助言する。</li> </ul>
5 本時	相互に手紙を読み合い、さまざまな三吉像を考えることができる。	<p>↑ 言語活動の充実 どんな言語活動をどんな手順で行っていくか明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>想像して書いたものを相互に読み合い、さまざまな三吉像を考える。</li> </ul>	○		◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>(関) 観察・ワークシート</li> <li>手紙を読み合うことに興味を持ち、進んで友人の手紙を読み、感想を書いている。</li> <li>(読) 観察・ワークシート</li> <li>友人の書いた手紙を読んで、<u>内容に即した感想</u>を書いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友人の良い点を見つけて感想を書くように助言する。</li> <li>自分自身の考えと比較し、さまざまなものの見方や考え方に気付くようにさせる。</li> </ul>

(4) 展開

◎自校のチェックポイントより

具体目標	学 習 活 動	時間・形態	教師の支援および指導上の留意点	評価（方法）	資料・準備
<p>本時の学習内容とめあてをつかむことができる。</p> <p>三吉への手紙を相互に読み合い、感想を書くことができる。</p> <p>さまざまなもの見方や考え方に気付くことができる。</p> <p>本時の学習を振り返る。</p>	<p>どんな言語活動をどんな手順で行っていくか明確にする。</p> <p>1 前時の学習内容を想起し、本時の学習内容とめあてを確認する。</p> <p>50年後の三吉を想像して書いた手紙を読み合い、感想を書こう。</p> <p>中学校学習指導要領 C「読むこと」の A「詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること」の言語活動例</p> <p>2 手紙をグループ内で読み合い、感想を書く。</p> <p>3 代表の生徒の発表を聞き、感想を発表し合う。</p> <p>知識・技能を活用し、他者と相互に思考を深めていく。</p> <p>4 友人と自分の手紙を比較し、良かった点や気付いたことを書く。</p> <p>自らの言語活動の振り返りを大切に。</p> <p>5 本時を振り返り、本時における自己評価を行う。</p>	<p>20 グループ</p> <p>10 一斉</p> <p>10 個人</p> <p>3 一斉</p>	<p>・本時のめあてを板書し、意識づけを図る。</p> <p>・自校のチェックポイントをより具体的に指導できるようにする。 ・語尾は「～を把握する」となるのがよい。</p> <p>・友人の手紙を自分の考えと比較しながら読み、良いところを見つけて感想を書くようにさせる。 ◎表情や発言、つぶやきなどから生徒の様子を把握する。 ・50年後の三吉を想像し、三吉に手紙を読んで聞かせるように発表をさせる。 ◎声かけによってうまく発表できない生徒が非難されないようにする。また、友人の発表に真剣に耳を傾けているかを把握する。</p> <p>・友人と自分の手紙を比較し、それぞれが抱いた三吉像にどんな違いがあったかを考えさせる。</p>	<p>(関心・意欲・態度) ・手紙を読み合うことに興味を持っている。 (観察・ワークシート)</p> <p>(読むこと) ・友人の書いた手紙を読んで、さまざまな考えがあることを知り、友人の良いところを見つけて感想を書いている。 (観察・ワークシート)</p> <p>(読むこと) ・さまざまな三吉像を通していろいろなもの見方や考え方があることを理解している。 (ワークシート)</p>	<p>ワークシートA ワークシートB</p> <p>ワークシートC</p> <p>評価用紙</p>

## 2 小学校3年社会科 地図を広げて「足利市を案内します」

### 1 小単元名 地図を広げて「足利市を案内します」

学習指導要領をもとに記述する。『学習指導要領・社会編』で該当部分を熟読し「何を調べ、何を考えさせるか」の確認をする。

### 2 小単元の目標

- (1) 足利市の地形や土地利用などの様子に関心をもち、それを意欲的に調べ、地域社会への愛着をもとうとする。 [社会的事象への関心・意欲・態度]
- (2) 足利市の様子について問題意識をもち、学習の見通しをもって追究・解決し、市のいろいろな場所の特徴や、場所による様子の違いを考え、表現することができる。 [社会的な思考・判断・表現]
- (3) 足利市の様子を白地図等にまとめながら、いろいろな資料を使って調べることができる。 [観察・資料活用の技能]
- (4) 足利市の様子は場所によって違いがあることや、それぞれの場所の特徴を知ることができる。 [社会的事象についての知識・理解]

### 3 単元設定の理由

教師が教材をどのようにとらえるか、また、この教材を使って児童生徒にどのような力を身につけさせたいのかなど教師の思いや願い整理して記述する。

#### (1) 教材について

本小単元は、学習指導要領の第3学年及び第4学年の目標(2)(3)及び内容(1)に基づいて設定したものである。

#### 《目標》

- (2) 地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人のはたらきについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。
- (3) 地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、地域社会の社会事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことを表現する力を育てようとする。

#### 《内容》

- (1) 自分たちの住んでいる身近な地域や市(区、町、村)について、次のことを観察、調査したり白地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする。

児童はこれまでに、前小単元の「学校のまわりをあるこう」で学校のまわりの土地の様子やその使われ方について、実際に観察したり聞き取り調査をしたりして調べ、白地図にまとめるとともに、調べたことや人々の生活の工夫について考えたことを発表する活動を行ってきた。

本小単元「足利市を案内します」では、調べる対象をさらに足利市全体に広げ、その様子を調べていくことになるが、児童のなかには自分たちの生活する矢場川地区を離れた経験に乏しい児童も少なからずいる。そうした児童のためにも本小単元では、写真や地図といった具体的に児童の視覚に訴える資料を多く用意し、児童の興味・関心の持続を図りたいと考える。また、調べていく場所についても、市内の小学校をポイントにその周辺を調べ、自分たちの小学校のまわりの様子と比較することで、より身近に足利市の様々な場所の特徴を知ることができるようにしたい。小単元の最後の「広げる」段階では、それぞれが調べたことを発表し合い知識を共有するとともに、足利巡りのカルタ作りをすることによって知識の定着を図り、地域社会への愛着へとつなげていくようにする。



児童・生徒の社会科学学習に対する取り組みの意欲や課題などを記述する。実態をしっかりと把握することにより課題解決のための具体的な指導方法を知ることができる。

(2) 児童の実態 アンケートの結果から〔調査人員 32人〕

- ①あなたは社会科の学習が好きですか？
  - ・好き（25人） ・ふつう（5人） ・きらい（2人）
- ②あなたは社会科の学習のどのようなところが好きですか？〔自由記述〕
  - ・みんなでいろいろな所に行って調べること（23人）
  - ・白地図などにまとめたり、わかったことをまとめたりすること（5人）
  - ・今まで知らなかったことがわかること（3人）
- ③足利市はどのようなところだと思いますか？〔自由記述〕
  - ・自然がたくさんある（23人） ・お店などがたくさんある（3人）
  - ・足利学校がある（2人） ・人がたくさんいる（2人）
- ④足利市のなかで、矢場川以外にどのようなところに行ったことがありますか？
  - ・市内の大型店舗（20人） ・駅近くの商店街等（8名）
  - ・足利学校、織姫神社等（6名） ・他の小学校（5名）
  - ・無回答（10名）

社会科の学習は3年生になって初めて学習する教科であり、どのような学習をするのか興味をもちながら4月の学習が始まった。児童は前小単元の「学校のまわりをあるこう」で、学校のまわりを実際に歩いたり地域の人に話を聞きながら学習をしており、その際にも児童は学習に高い興味・関心をもちながら学習に取り組んでいた。事後の児童の感想もとても楽しかったという感想が多く聞かれ、今回のアンケート結果からも児童の社会科に対する興味・関心の高さがうかがえる。

本小單元に関する調査では、児童は足利市全体のイメージを自分たちの生活圏である矢場川地区を中心としてとらえており、実際には家庭で足利市の様々な場所に行っているにもかかわらずそれを足利市のイメージとしてはとらえていないことがわかった。また、どこに行ったことがあるかという質問に対して無回答の児童も10人おり、足利市全体の様子が漠然としか意識されていないことがわかった。

「教材観」として書かれることもある。小単元の目標を達成するための具体的な手だてを記述する。研究主題がある場合は、その関連を記述し自分の指導の方向性をはっきりとさせることも大切である。授業の参観者はここで記述されたことを中心に授業を見ることになる。

(3) 研究主題との関連

本校では今年度、研究主題を「めあてをもって意欲的に取り組む子の育成～言語活動の充実と、ともに学び考えを深め合う学習を目指して～」とし、本小單元では以下のような手だてをもって指導を進めていくことにした。

○社会科における言語活動の充実

これまでの社会科では、指導過程の「調べる」活動が中心に置かれ、調べた後の児童同士の練り合いの部分が不足がちであった。その反省から本小單元では児童が市内の特徴のある地域を調べた後、自分たちの住む矢場川地区とその特徴を比較検討し、類似点や相違点を自分なりの文で表現したり、お互いに意見を発表し合ったりすることにより各児童の知識を確かなものにし、言語表現の力がつけられるようにした。

○ともに学び考えを深め合う学習

本小単元の「調べる」段階では、児童はグループになり市内各地域の特徴を写真や地図から見つけていく。グループで調査することにより、一人では見つけることのできない新たな発見をし、また、お互いに意見を交わすことにより、より深くその特徴をすることができるようにした。

4. 人権教育のチェックポイント

この単元の指導においては、チェックポイントの「机間指導の時間を確保し、励ましながら、温かい支援を行えているか。」に重点を置き、声かけを通して一人一人の学習状況をしっかりと把握していきたい。

5 小単元の指導計画〔12時間扱い〕

前述の「単元設定の理由」を受けて、児童・生徒に何をどのように調べ考えさせるのか、どのように評価を行うのかを単位時間ごとに簡潔に記述する。目標との関連からどこに重点をおいて指導するかもはっきりとさせることが大切です。

観時	主な学習活動・内容	教師の支援と評価
つかむ	<p>1 ○市内の様々な土地の様子をあらわした写真を見て、足利市の土地の様子に関心をもつ。</p> <p>2 ○足利市全体の土地の様子について考</p> <p>3 え、学習問題を考える。</p> <p>足利市の人びとは、土地や交通の特色を生かして、どんなくらしをしているのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・足利市全体の航空写真を用意し、そこからわかることを発表し合う。</li> <li>・足利市の地図を見て地形の様子を白地図に表し、予想したことを記入する。</li> <li>・次時からの学習の手順を示し、学習に見通しがもてるようにする。</li> </ul>
調べる	<p>4 ○市内の他の学校のまわりの様子を調べ</p> <p>9 白地図に表し、自分たちの学校のまわりの様子と比較し、類似点や相違点をまとめる。</p> <p>新学習指導要領では、中学年で、「方位や主な地図記号」の内容が追加されました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の特徴のある地域の小学校を取り上げ、そのまわりの様子について調べるようにする。</li> <li>・各小学校のまわりの写真を用意し、グループで分担してそのまわりの様子を調べる。</li> <li>・土地利用、交通、公共施設等の調べる視点を与え調べるようにする。</li> <li>・ワークシートを用意し、常に自分の矢場川小と比較して調べるようにする。</li> </ul>
まとめる	<p>10 ○グループでまとめたことを発表し合</p> <p>本 時 い、足利市全体の様子についてわかったことを話し合う。</p> <p>新学習指導要領では、どの学年にも「調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする」と明示され、観察や調査をしたり、各種資料から調べたりするだけでなく、考えたことを自分の言葉でまとめることが重視されています。そして、それを伝え合うことでお互いに考えを深めていく活動を工夫する必要があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、個人でまとめ自分の考えをしっかりともち、その後でグループでの話し合いに移るようにする。</li> <li>・各グループで調べたことを教室に整理しながら掲示し、比較検討することで、市内には様々な特徴の場所があることを意識できるようにする。</li> </ul>
ふかめる	<p>11 ○足利市カルタを作る。</p> <p>12</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の特徴のある場所を自分の言葉と絵でカルタにし、それをクラス全体で一つにすることで、知識の共有化を図れるようにする！</li> </ul>

単元全体の問題解決的な学習の流れを書くようにし、児童・生徒が主体的に学習できるようにする。

単位時間ごとの学習内容を児童の立場で書く。作業的・体験的な学習活動を組み入れるとともに、児童・生徒同士の練り合いの場も十分に時間を確保することが大切です。

ここでは学級全体への支援を中心に記述する。学習課題を児童・生徒が自ら発見し、自らの学習スタイルを生かしながら学習が進められるように支援する。

6 本時の指導 (10 / 12 時)

- (1) 題目 足利市には、どのようなとくちょうの場所があるの  
 (2) ねらい グループで調べた足利市の特徴のある地域の発表を聞き合う活動を通して、足利市の様子は場所によって違いがあることを考えることができる。  
 (3) 展開

◎自校のチェックポイントより

学習活動	時間・形態	教師の支援	評価	資料
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     足利市にはどのようなとくちょうのある場所があるのでしょうか。                 </div>	<p>5 (一斉)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他のグループの発表を聞き、自分たちの住む矢場川地区とどのような類似点や相違点があるかを考えていくことを伝える。</li> <li>◎表情、発言、つぶやきなどから、児童の様子を把握する。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     自校のチェックポイントをもとに、どの場面でどのような方法で児童生徒の実態を把握するか具体的に記述する。                 </div>	
<p>2 グループ発表を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループで調べた市内の特徴のある地域の様子を発表し合う。</li> <li>聞く側は矢場川地区と比較して聞くようにする。</li> </ul>	<p>25 (一斉・グループ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童には、これまで地形、土地利用、公共施設、交通等の視点を与え調べるように助言してきた。聞く側もそれらの視点に沿って矢場川地区、自分たちの調べた地域と比較できるように助言する。</li> <li>発表者には、聞き手に納得させられるようなわかりやすい言葉で、話すスピードや声の大きさなどにも気を付けて発表するように促す。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>前時までに各グループで用意した掲示物。</li> </ul>
<p>3 足利市全体のようにすについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内には様々な地形の場所がある。</li> <li>市内の中心部は家も多く人の集まる公共施設も多い。</li> <li>土地の様子などによって農業の様子やその他の産業にも違いがある。</li> </ul>	<p>13 (個人・一斉)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まず、個人でわかったことをワークシートに記入させる。その際には、地形や交通の様子と人々の生活がつながっていることがわかるように助言を与える。</li> <li>◎机間指導により個々の考えを把握する。</li> <li>児童の意見をできる限り尊重し、肯定的にとらえるようにする。また、児童の意見が集約できるように適宜、補足的な発問をし、まとめていくようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市の様子は、場所によって違いがあることを考え、適切に判断できているか。 〔観察・ワークシート〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> </ul>
<p>4 本時のまとめをし、次時の学習内容を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次時からは足利カルタを作ること伝える。</li> </ul>	<p>2 (一斉)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの児童の本時の頑張りを認め、次時への意欲につなげていきたい。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     言語活動の充実                      新学習指導要領では、「調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする」と明示され、調べて考えたことを自分なりの言葉でまとめ、それをお互いに伝え合いながら考えを深めていく活動が重視されている。                 </div>	

### 3 小学校6年算数科 「分数のかけ算」

#### 1 単元名 分数のかけ算

- ・学習指導要領をもとに記入する。特に、その学年の指導内容との整合性を図ることが大切である。
- ・観点別に分けて書く。

#### 2 単元の目標

- (1) 分数×分数の計算について、計算のしかたを考えたり、それらを活用したりしようとする。  
(算数への関心・意欲・態度)
- (2) 分数×分数の意味や計算のしかたを、整数や小数の計算や分数×÷整数の考えをもとにして考えることができる。  
(数学的な考え方)
- (3) 分数×分数の計算ができ、それらを適切に用いることができる。  
(数量や図形についての表現・処理)
- (4) 分数×分数の計算の意味やしかたがわかる。  
辺の長さが分数で表されていても面積や体積の公式が使えることや、分数の乘法についても交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことがわかる。  
(数量や図形についての知識・理解)

#### 3 単元設定の理由

- ・指導内容に関する系統性や単元間の関連性、子ども達はこの単元を通して何を学ぶのかを記入する。
- ・子ども達にとって、どのような意味をもつのか、教師の思いを記述する。例 教材の教育的価値  
児童生徒に学んでもらいたい価値内容

##### (1) 単元観

本単元は、学習指導要領第6学年の「内容A 数と計算 A(1) 分数の乘法、除法」

- (1) 分数の乘法及び除法の意味についての理解を深め、それらを用いることができるようにする。
  - ア 乗数や除数が整数や小数である場合の計算の考え方を基にして、乗数や除数が分数である場合の乘法及び除法の意味について理解すること。
  - イ 分数の乘法及び除法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。
  - ウ 分数の乘法や除法についても、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること。

に基づくものである。

児童はこれまでに、整数及び小数の四則計算について学習した。また、分数では同分母や異分母の加法及び減法や、前単元で乗数や除数が整数である場合の分数の乘法及び除法の計算についても学習した。

本単元では、このような学習を受けて、乗数が分数の場合にまで乘法を拡張する。同数累加の考えでは解決できない計算である。

導入では、「1 dLで $4/5$  m<sup>2</sup>の壁を塗れるペンキ $1/3$  dLでは何m<sup>2</sup>の壁が塗れるか」という問題を扱う。 $4/5 \times 1/3$ という乗数が単位分数の場合を取り上げ、分数をかけることの意味をおさえながら計算のしかたを考えていく。

立式や計算のしかたは、整数や小数の乘法、分数×÷整数の学習の手立てとして考えさせる。分数の乘法は、分母どうし、分子どうしをかければ計算できるので、計算手順としては覚えやすい。指導にあたっては、分数をかけるという意味を考え、計算のしかたを導き出すまでの過程に重点をおきたい。数直線や面積図を使って、自分なりの表現で計算のしかたを説明させて考えさせるという、算数的活動も重視したい。

・本単元内容に関するレディネスの状況や単元内容に関する生活経験などを記述する。  
(一般的な児童生徒の様子は、記述する必要はない。)

## (2) 児童の実態

6年算数科では少人数クラスによる学習を行っている。本コースの児童は、算数科の学習を不得手とし、計算や作業に時間を要する児童が多く、ゆっくり繰り返しながら学習するスタイルを好む。よって、本コースは前時に学習したことをふりかえりながら学習を進めていくこととする。

本単元ワクワクコース児童18名、10月23日(金)実施のアンケート結果から、好き・とても好き:60% 嫌い・あまり好きでない:40% 楽しい:63% あまり楽しくない:37% コースごとに学習することによって、(とても)わかるようになった:88% かわらない:12% 好きな学習スタイルは、クラス:19% TT:37% コース別:44% となった。以上のことから、算数の学習を不得手としている児童がいるが、コース別学習やTTを好み、算数の学習を「楽しい」「わかるようになった」と感じている児童が多いことがわかる。楽しいと感じるときは、「テストでよい点をとったとき」「〇をもらえたとき」「先生の説明を聞くとき」「ノートを書くとき」また、プリントやドリルでの学習を好む児童は少ない。これらのことから、学習姿勢は受身だが、「わかりたい」「できるようになりたい」という学習意欲が大いに感じられる。また、本時のめあてを十分につかめない児童、考える時間や活動する時間を十分に必要とする児童がとても多い。

単元の内容やこれら児童の実態を踏まえ、興味・関心をもたせるために学習課題を視覚的にとらえさせたり、半具体物を使って操作して自分なりの表現で考えさせたり、スモールステップで課題解決に迫ったりして展開していく。また、コース別学習に加え、TTによる指導で、一人一人に応じたきめ細かな指導を目指す。多面的に児童のつまずきや取り組みを見取り、指導・支援・評価を行う。児童が「できた」「わかった」という成就感と、学ぶ楽しさが感じ取れるような学習を目指したい。

・単元構想や授業を指導するために必要な考え方(子どもの考えを引き出す活動など)を記述する。  
・児童生徒が目標を達成するための具体的な手だてを書く。  
例 興味・関心・意欲を引き出すために何をしたらよいのか。  
考える力を伸ばすために何をしたらよいのか。  
表現力をつけるために何をしたらよいのか。  
知識や技能を身に付けさせるために何をしたらよいのか。

## (3) 指導観

### (研究主題との関連)

研究副主題「子どもの心を感じとることができる教師」に迫り、子どもの不安や悩みを受け止めるために、次のような実践をしている。

#### <教科・領域での実践>

- (1) 学習内容を理解したり考えをもったりすることが困難な児童については、「ここまでできた(考えられた)」といった努力してきたことを認め励ます声かけを心がけ、学習に対するつまずきを把握することに努めている。
- (2) 書く時間や考える時間を多くとり、ゆっくりわかりやすく話し、一人一人の表情を見ながら説明するよう努めている。
- (3) 集中して学習に取り組めない児童については、声かけや机間指導を行い、学習内容を確認したり本時のめあてをもたせたりしながら、学習意欲を引き出すことに努めている。
- (4) 学習や自分の言動に自信がもてない児童に対しては、座ったままの発言、つぶやきなど、思ったことを気楽な気持ちで発言できるような雰囲気作りに努めている。

## 4 人権教育のチェックポイント

この単元の指導においては、チェックポイントの「児童の表情、発言、つぶやきなどを注意深くみ取り、質問できるきっかけをつくっているか。」に重点を置き、机間指導や声かけを通して一人一人の活動の様子をしっかりと把握していきたい。

- ・各時間の流れを示す。
- ・本時がどの時間になるのかを明記する。

## 5 指導計画

(総時数9時間 本時1/9)

時	内 容	主 な 学 習 活 動
1	分数×単位分数の意味と計算のしかた①	・挿絵を見て、場面について話し合う。 ・ $1/3$ dLで塗れる面積を求める式を考える。
2	分数×単位分数の意味と計算のしかた②	・ $4/5 \times 1/3$ の計算のしかたを考える。 ・ $4/5 \times 1/3$ の計算のしかたを発表し、気がついたことを話し合う。
3	分数×分数の意味と計算のしかた①	・問題文を読み、式を考える。 ・ $4/5 \times 2/3$ の計算のしかたを考える。
4	分数×分数の意味と計算のしかた②	・ $4/5 \times 2/3$ の計算のしかたを発表し、気がついたことを話し合う。
5	分数×分数で約分する計算、整数と分数の乗法計算	・ $9/10 \times 5/3$ の計算のしかたを考え、計算の途中で約分する方法を考える。 ・ $2 \times 3/7$ 、 $2/9 \times 4$ の計算のしかたを考える。
6	3口の分数の乗法計算	・ $3/4 \times 2/5 \times 1/3$ の計算のしかたを考える。
7	面積の公式、体積の公式の分数への拡張	・辺の長さが分数でも面積の公式が使えるか、図に表して考える。また、面積の公式にあてはめてみる。
8	計算法則の分数への拡張	・分数のかけ算でも計算のきまりが成り立つことを調べる。
9	「分数のかけ算」の練習と単元のまとめ	・単元の練習とまとめをする。

## 6 本時の指導

(1) 題材名 分数×単位分数の意味と計算のしかた

- ・学習のゴールを明らかにし、子ども達が、その時間で最終的に何ができるようになるかについて明記する。
- ・語尾は「～できる」「～になる」「～を知る」等にするとよい。できるだけ具体的に記述するようにする。

(2) 本時の目標

- ・分数×単位分数の意味や計算のしかたを、整数や小数の計算や、分数×(÷)整数の考えをもとにして考えることができる。

(3) 展開 (別紙)

(4) 評価

- ・分数×単位分数の意味や計算のしかたを、整数や小数の計算や、分数×(÷)整数の考えをもとにして考えることができたか。(ノート、発言、活動の様子)

・本時の学習指導案が、読んだ人に分かるように記述する。

(3) 展開

◎ 自校のチェックポイントより

学習活動	時間 形態	○ 指導上の留意点	評価
<p>1 教科書 p.9の挿絵を見て、場面について話し合う。</p> <p>めあて 分数×分数の計算のしかたを知ろう。</p>	<p>5分 一斉</p>	<p>○課題を視覚的にとらえさせ、興味関心を持たせる。 4/5という分数を確認する。挿絵の場面からいろいろなことを読み取り、学習課題に結びつけさせる。 ◎表情、発言、つぶやきなどから、児童の様子を把握する。</p>	<p>授業への期待や不安を把握することが大切です。</p>
<p>2 本時の学習問題を確認する。</p> <p>① 1dLで4/5m<sup>3</sup>のかべをぬれるペンキがあります。このペンキ3dLでは、何m<sup>3</sup>のかべをぬれるでしょうか。</p> <p>② 1dLで4/5m<sup>3</sup>のかべをぬれるペンキがあります。このペンキ1/3dLでは、何m<sup>3</sup>のかべをぬれるでしょうか。</p> <p>様々な考えを出し合うことにより、学びが深まります。</p>	<p>15分 個別 ↓ 一斉</p> <p>15分 個別 ↓ 一斉</p>	<p>◎声かけをして、問題の意味が理解できているかを把握する。 ○わかっていることや考え求めることに線を引き、課題を理解させる。 ○簡単な整数で考えさせ、学習問題をとらえることができるように助言する。 ○かけ算で求められることに気付かせる。 ○分数×整数なので、前単元の復習であることを話す。 ◎机間指導をし、ヒントとなる言葉かけなどをしながら、児童の様子を把握する。</p> <p>一人一人の学習意欲を喚起させる必要があります。</p> <p>○「1」に対する「1/3」の大きさを数直線上で比べることを助言する。 ○立式から考えても、求答から考えてもよいことを促す。 ○面積図(用紙)をもとに、答えを考えることを促す。 ○4/5÷3という考えも認めさせる。 ○数直線から、×1/3について考えることを促す。 ◎発表時の説明の中で、表情や発言、つぶやきなどから児童の様子を把握する。 ○言葉の式に表し、立式の手立てとする。 (1dLで塗れる面積×ペンキの量=塗れる面積)</p>	<p>数直線や面積図をもとに、見通しをもち筋道を立てて考えることで、表現する能力を育てます。</p> <p>一人一人の表情やつぶやきを拾い、認め励まします。</p> <p>分数×単位分数の意味や計算のしかたを、既習事項をもとにして考えることができたか。</p>
<p>3 数直線をもとに、4/5×1/3について確認する。</p>	<p>5分 一斉</p>	<p>○乗数が分数でも、整数や小数のときと同様にかかけ算が使えることを確認させる。 ○倍を表す数が1より小さい場合は、積は被乗数より小さくなることをおさえる。</p> <p>○次時の予告をする。</p>	

## 4 小学校4年理科 「ものの温度と体積」

### 1 単元名 「ものの温度と体積」

単元全体を見通した目標内容を整理して、記述する。

### 2 単元の目標

#### (1) 総括目標

温度による空気の体積の変化を、見通しをもって追求することができるようにするとともに、水や金属の体積の変化を空気と比較しながらとらえることができるようにする。また、空気・水・金属は、温度によって体積が変化するという見方や考え方を養うようにし、体積変化と温度変化とを関係付ける能力や興味・関心を持って追求する態度を育てる。

#### (2) 具体目標（評価規準）

観点別に本単元の目標を記入する。  
観点別に記入のみの場合もある。

##### ア 自然事象への関心・意欲・態度

(ア) 空気・水・金属を温めたり冷やしたりしたときの現象を調べようとする。

(イ) ものの温度による体積の変化をとらえ、身の回りの現象を見直そうとする。

##### イ 科学的な思考・表現

(ア) 空気・水・金属の温度変化と体積の変化とを関係付けて考えることができる。

(イ) 空気・水・金属の温度による体積の変化を比較して、ものには熱に対する性質の違いがあることを考察し、表現することができる。

##### ウ 観察・実験の技能

(ア) 予想を確かめる実験の計画を立て、空気や水を温めたり冷やしたりしたときの体積の変化を調べることができる。

(イ) 金属球膨張試験器を使って、金属を温めたり冷やしたりしたときの体積の変化を調べることができる。

##### エ 自然事象についての知識・理解

(ア) 空気は、温めたり冷やしたりすると、その体積が変わることが分かる。

(イ) 水は、温めたり冷やしたりすると、その体積が変わるが、その変化は空気より小さいことが分かる。

(ウ) 金属は、温めたり冷やしたりすると、その体積が変わるが、その変化は空気や水より小さいことが分かる。

### 3 単元について

学習指導要領から指導内容の系統性を整理し、発達段階を考慮し、単元のねらいや押さえるべき基礎基本を本単元でどのように指導するのかを明らかにする。

#### (1) 教材観

本単元の内容は、小学校学習指導要領理科編第4学年A-(2)金属、水、空気と温度

金属、水及び空気を温めたり冷やしたりして、それらの変化の様子を調べ、金属、水及び空気の性質についての考えをもつことができるようにする。

ア金属、水及び空気は、温めたり冷やしたりすると、その体積が変わること。

に基づき、設定されたものである。



これまで、児童は第4学年「空気や水をとじこめると」の単元で、閉じこめた空気を圧すと体積は小さくなるが、圧しかえす力は大きくなること、閉じこめた空気は押し縮められるが、水は押し縮められない等、水や空気の性質について学習してきた。

本単元では、空気・水・金属を温めたり冷やしたりしたときの体積の変化やその大きさの違いをとらえ、その変化と温度とを関係付けながら、ものは温度によって体積が変化するという性質をとらえるさせることがねらいである。まず、温度による体積変化が大きい空気を温める活動を通して、児童の興味・関心を高めるとともに、予想を確かめるための実験の計画を立てさせ、詳しく追求していく。さらに、水や金属についても比較しながら調べ、それぞれの体積変化を温度変化と関係付けてとらえられるようにさせたい。

また、これまで教室や屋外での実験・観察が多かった児童にとって、本格的に理科室での活動が始まる単元でもある。マヨネーズの容器など身の回りにあるものや理科室にある実験用具を使って、正しく安全に実験する技能も身に付けさせるようにしたい。

## (2) 児童の実態

男子12名、女子8名、計20名の学級である。次のようなアンケートを4件法で採った。

- ①理科は好きですか。
- ②実験や観察は好きですか。
- ③実験の方法を考えることは得意ですか。
- ④実験の結果から分かることを文章でかくのは得意ですか。
- ⑤友達に自分の考えを説明するのは得意ですか。
- ⑥図や表を使ってまとめるのは得意ですか。

本単元に関する児童の実態を中心に記述する。児童の一般的な理科への様子は、わずかでよい。

マトリックス等、整理の方法はいろいろ工夫できる。

結果は次のようであった。(%)

	①	②	③	④	⑤	⑥
好き(得意) どちらかといえば好き(得意)	85	95	60	55	40	65
好き(得意)ではない どちらかといえば好き(得意)ではない	15	5	40	45	60	35

アンケートの結果によると、理科が好きで、観察や実験を好む児童が多い。授業中も楽しそうに観察や実験に取り組む児童の姿が見られる。どちらかという好奇心が旺盛な学級であるが、楽しい、おもしろいということに気をとられ、関係のない遊びの方向へ行ってしまうたり、何のために観察や実験をしているのかという目的意識が希薄になったりしがちなところも見受けられる。

観察や実験が好きで一方、実験の結果から分かることを文で書いたり、友達に自分の考えを説明したりすることを苦手としている児童が多い。そのため、これまでの授業では、実験の結果をまとめる場面でキーワードを提示し、それを使って文にまとめたり、発表の前に周りの席の友達と相談し合ったりする活動などを取り入れてきた。

苦手なことについては男女差も見られる。女子については、ノートに図や表、文でまとめることをある程度得意としているが、声に出して説明したり、自分の意見を発表したりすることは苦手である。男子については得意、不得意の個人差が大きい。アンケートでも理科が得意な数名の児童は、すべての項目について好き・得意と答えたのに対し、数名の児童は実験は好きであるものの、③から⑥の項目について全部得意ではないと答えており、苦手意識がうかがえる。

このような実態を踏まえて、本単元で課題に対しての予想を立て、それを確かめるための実験をしていく際には、何のためにこの実験を行うのか、目的意識をはっきりもって取

り組むようにさせたい。また、実験結果への見通しももたせ、こうした結果が出たからこうと言える、ということもしっかり押さえさせていきたい。説明活動については、ペア、グループ、全体などいろいろな形態を取り入れたり、発表は前に集合させて挙手しやすくしたりするなど、発言しやすい場の工夫もしていきたい。個人差への対応としては、T、Tで支援にあたりたい。

本単元では、言語活動を含めたアンケートと考察をもとにしている。そこから、実態に合わせた指導計画を立て、指導法を導くことが大切である。

### (3) 研究主題との関連

説明活動を取り入れた授業展開

ア 思考の場面を設定する。

- ・単元の導入では、シャボン玉液、発砲ポリエチレンのせんなどを使って閉じこめた空気を温める実験などをいろいろと試させる。うまくいったときの工夫やなぜせんが飛んだりシャボン玉が膨らんだりするのかについて考えさせ、空気を温めたり冷やしたりしたときの予想を確かめるための実験方法を考える学習へとつなげたい。
- ・空気を温めたり冷やしたりするとどうなるのか、予想を確かめるための実験の方法を図に表すなどして児童に考えさせ、実験に必要な道具や目的意識、実験結果の見通しをもてるようにさせたい。また、実験の時間は十分に確保したい。
- ・実験の結果から分かることを文や図など自分なりの方法で表現させたい。

または、「指導観」。指導の重点や児童の考えを導くための活動や手立てを記述する。

イ 説明する場面を設定する。

- ・空気を温めたり冷やしたりする実験の際には、「～と予想したので～の実験を行う。その結果～になると考えた」「予想した結果と違ったら～ということが言える。」など、見通しをもたせ、説明できるようにした上で実験に臨ませたい。
- ・ペア、グループ、全体など、いろいろな形態で、自分の考えを友達に説明する場面を設定したい。児童を前に集めてから発表させるなど、発表の場の設定も工夫したい。
- ・全体への説明活動の際に、プロジェクターを用いる。聴覚だけでなく、視覚的にとらえやすくすることによって、説明の理解がしやすくなるとともに、発表への児童の意欲を高めたい。
- ・問題解決の流れがはっきりと分かり、児童の思考を助けるようなワークシートの工夫をする。例えば、自分の考えを説明するのが苦手な児童には、言葉を当てはめるようなワークシートを使わせたい。

説明活動を中心とした手立てを記入している。予想を検証する方法を自分なりにどのように表現させるかを具体的に記して、言語活動の充実を図っている。

## 4 人権教育のチェックポイント

この単元の指導においては、チェックポイントの「グループなど、少人数で発言できる機会を設け自信を持たせ、それから全体の場へ広げるような雰囲気づくりをしているか。」に重点を置き、机間指導を通して一人一人の様子をしっかりと把握していきたい。

5 単元構想のイメージ図 (11時間扱い)

**第5次 (11/11)** 【知・理】

空気も水も金属も温度によって体積が変わるね。

温めると体積が大きくなって、冷やすと体積が小さくなったよ。

空気、水、金属の順に変化が大きいよ。

図や文でまとめたら友達にも説明してみよう!

空気、水、金属の温度と体積の変化についてまとめよう。

**第4次 (9~10/11)** 【関・意 思考 技能 知・理】

熱した玉は輪を通らない。

玉を冷やすと輪を通ったよ。

金属の体積変化はすごく小さい。

金属も温度によって体積が変わる。分かったことをまとめてみよう。

実験をしよう。結果からどんなことが分かったかな?

水や空気と同じように変わる。

金属は変わらないと思う。

金属の玉を輪に通して実験するんだね。

予想を確かめるための実験をしてみよう。

金属も温度変化によって体積がかわるのだろうか。

**第3次 (7~8/11)** 【関・意 思考 技能 知・理】

ガラス管の水が増えたり減ったりしている!

水も体積が大きくなったり小さくなったりするんだね。

空気と比べたけど空気より変化が小さいね。

空気より変化は小さいが水も温度によって体積が変わる。では、金属は?

実験をしよう。結果からどんなことが分かったかな? (60分)

空気と同じように体積がかわるよ。

水の体積は変わらないよ。

実験の方法を考えたよ。

予想を確かめるための実験をしてみよう。

水も温度変化によって体積がかわるのだろうか。

**第2次 (2~6/11) <本時6/11>** 【関・意 思考 技能 知・理】

風船がフラスコの中にひっこんだよ!

マヨネーズの容器がへこんだよ。空気の体積が小さくなったんだ。

分かったことを友達にも説明しよう。

空気は冷やすと体積が小さくなる。では、水は?

実験をしよう。結果からどんなことが分かったかな? (60分)

体積はもとに戻るだけだよ。

体積は小さくなると思う。

予想を確かめる実験の方法を考えたよ。

予想を確かめるための実験をしてみよう。

空気を冷やすと体積はどうなるのだろうか。

せんを下に向けてもとんだ。空気は下にも行くんだ。

マヨネーズの容器がふくらんだ。空気の体積が大きくなったんだ。

実験から分かったことを図でまとめてみたよ。

空気を温めると体積が大きくなる。では、冷やしたら?

実験をしよう。結果からどんなことが分かったかな? (60分)

温められて空気が上にいったからかな?

温められて体積が大きくなったからかも。

予想を確かめるには…実験方法をいろいろ考えたよ。

予想を確かめるための実験をしてみよう。

なぜ、湯につけた容器のせんがとんだのだろうか。

**第1次 (1/11)** 【関・意】

すごい!お湯につけたらせんがとんだよ。

温めたらシャボン玉がふくらんだ!

不思議だな。どうしてなんだろう。

せんはなぜとんだのだろうか?

容器に空気をとじこめてあたためてみよう。

6 本時の指導

(1) 題材名 空気の温度と体積

(2) 目標 空気の温度変化と体積の変化とを関係付けて考えたり、実験の結果から分かったことを図や文で表したり説明したりすることができる。(科学的な思考・表現、観察・実験の技能)

(3) 展開 (本時 6 / 11)

◎自校のチェックポイントより ☆研究主題に関連した支援

学 習 活 動	時間・経緯	指導上の留意点・教師の支援	評価・準備等
1. 前時までの学習を振り返る。	2 (一斉)	・空気を温めると体積が大きくなることを確認する。	・学習の流れを記した図
2. 課題を確認する。  空気冷了すと体積はどうなるのだろうか。	1 (一斉)	・本時の課題をしっかりと確認させる。 ・本時の学習の流れについても確認する。	
3. 実験方法を確認する。  実感をともなった、科学的な探求活動を行う。(科学的な考え方)	7 (一斉)	・前時に考えた、予想を確かめるための実験方法について説明させる。 ☆本時の実験の目的や方法をもう一度確認させ、実験が目的意識をもって進められるようにする。 ・実験道具についても確認させる。	・ワークシート
4. 実験をする。  実験からわかったことを整理し、考察する活動を行う。(科学的な思考力の育成の充実を図る)	15 (グループ)	・グループごとに友達と協力し合っ て実験をさせる。 ○風船の実験 ○ゼリーの 実験 ○シャボン玉の実験 ○ボールの実験 ○マヨネーズパックの実験 など  ・実験中の安全確認を十分に行う。 ☆予想と違った結果がでた場合、 どんなことが言えるのか考えさせる。	・実験道具 フラスコ、試験管、風船、マヨネーズの容器、ペットボトル、シャボン玉液、プラスチック容器、水、ポット ・安全に実験に取り組むことができたか。(観察)
5. 実験の結果と結果から分かったことを確認する。	8 (一斉)	・実験の結果を発表させる。 ・空気は冷やすと体積が小さくなることをおさえる。	
6. 実験の結果や分かったことについてまとめる。	12 (個人)	・実験の結果や結果から分かったことを図や文で表すようにさせる。 ・活動が進まない児童に寄り添って支援する。(T2) ☆自分の考えを友達に説明することを意識して書かせる。	・自分の考えを図や文で表すことができたか。 (ワークシート)
7. 分かったことを友達に説明し、話し合う。  説明活動を取り入れる。表現方法を考え、ペアやグループから全体へ発表させる等の手立てをとる。(言語活動)	13 (ペア) (グループ) (一斉)	・ペア、グループ、全体の順で話し合わせる。 ◎話し合いの様子を観察し、学習状況を把握する。 ☆図や文で表したことを友達にも分かるように説明させる。 ・自分の意見と比べながら聞き、質問をしたり感想を言ったりしながら話し合わせる。 ・説明活動が苦手な児童を見守り、支援する。(T2) ・全体での話し合いでは、プロジェクターを用いる。	・自分の考えを友達に説明することができたか。 (発表・観察)
8. まとめる。	1 (一斉)	・空気は冷やすと体積が小さくなることを再度確認する。	・プロジェクター ・書画カメラ
9. 次時の予告を聞く。	1 (一斉)	・水を温めたり冷やしたりしたらどうなるのか実験していくことを話す。	

## 5 中学校 1 年英語科 Lesson 3 I Play Football

- 1 単元名 Lesson 3 I Play Football  
( New Crown English Series Book 1 )

2 単元の目標

英語科のねらい、学年の目標を達成するために  
単元レベルの目標を観点別に明確に表記する。

- (1) 間違いをおそれず英語で積極的に話している。  
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2) 一般動詞を用いて、自分や自分の持ち物などについて問答することができる。  
(外国語表現の能力)
- (3) 一般動詞を含む文を聞いたり読んだりして、相手の伝えたい内容や意向を理解することができる。  
(外国語理解の能力)
- (4) be 動詞と一般動詞の意味・用法の違いを理解している。  
(言語や文化についての知識・理解)

3 単元設定の理由

既習の教材や将来学習する教材と現在学習しようとして  
いる教材の関連性や期待される学習活動等を記述する。

(1) 単元観

この課の題材は、アメリカの代表的なスポーツであるフットボールと、日本発祥のスポーツであるソフトテニスについて学ぶという「比較文化」の領域に入るものである。スポーツのもつ意義について考えるとともに、スポーツのもつ特異性と普遍性について考えることを通して、視野を広げ、異文化を理解し尊重しようとする態度を育てることを目的とした題材である。

言語材料は、本課で初めて、一般動詞の have, like, play, want などを学習する。これまでは be 動詞を使って自己紹介や身近なもの等について表現してきたが、一般動詞を学ぶことによって表現の幅が大きく広がり、より生き生きとした表現活動が展開できる。

しかしながら一方で、これまで学んできた be 動詞の疑問文・否定文の作り方との違いは、1 年次の学習内容で最もつまづきやすい箇所のひとつでもある。両者の違いがしっかりと定着するように繰り返し練習させる必要がある。そこで、ペアやグループでの活動などを多く取り入れて、生徒同士が互いに教え合えるようにしたり、ゲームやインタビューなどの活動を活用したりして、楽しい雰囲気の中で自然と身につけられるよう工夫していきたい。

(2) 生徒の実態

主体的な学習や個に応じた指導を展開するために、個々の生徒の観点別学習状況や人間関係等を把握する。

全体的には、生徒たちは明るく前向きに学習に取り組んでおり、活発な授業を展開できるクラスである。英語に対して高い興味・関心を持ち、学習意欲が旺盛で積極的に発言する生徒も多く見られる。一方で、意欲はあるものの、集中力不足できちんとノートをとることができなかつたり、家庭学習が不十分なために学習内容が定着しない生徒も見られる。また、特に「書くこと」の領域で個人差がでてきており、遅れが目立つ生徒も見られる。このような中で、どの生徒も興



5 指導計画と評価計画 ( 5時間扱い 本時 5/5 )

単元全体の学習の流れを書く。本時がどの時間にあたるかを示す。

時	学習活動	具体の評価規準				「努力を要する」状況と判断される生徒への手だて		
		コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力		外国語理解の能力		言語や文化に ついての 知識・理解	
			話すこと	書くこと	聞くこと			読むこと
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・be動詞と一般動詞の意味の違いを理解する。</li> <li>・ボールの持ち物についての紹介文を読む。</li> <li>・フットボールについて知る。</li> </ul> <p>「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能をバランスよく取り入れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○会話練習に積極的に参加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一般動詞have, like, play などを使った文を言うことができる。</li> <li>○本文の意味を考えながら強弱やイントネーションなどに注意して音読することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書の本文を正しく書き写すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文を聞き取り、内容についての質問に答えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○be 動詞と一般動詞の意味の違いを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・be 動詞を使った文の復習をして、一般動詞との違いがしっかりとわかるようにする。</li> <li>・口頭練習を十分に行う。</li> <li>・英文を書き写す際に個別指導をし、速く正確に書けるよう助言する。</li> </ul>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の持ち物について一般動詞を使って簡単に紹介する。</li> <li>・be動詞と一般動詞の疑問文・否定文の違いを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発表や会話練習に積極的に参加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の持ち物などについてI have~, や I like ~, などを使って話すことができる。</li> <li>○音量や強弱等に注意しながら発表することができる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達を持ち物などについて聞き、正しく理解できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○be 動詞と一般動詞の疑問文・否定文の違いを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の前に十分に口頭練習を行う。</li> <li>・be 動詞を使った疑問文や否定文の復習をして、一般動詞との違いがしっかりとわかるようにする。</li> </ul>	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Do you ~ ? を使って互いの持ち物や好きなことなどについて問答をしあう。</li> <li>・ボールと久美の会話文を読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○会話練習に積極的に参加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Do you ~ ? を使って互いの持ち物や好きなことなどについて問答をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書の本文を正しく書き写すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○質問に対して答えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文の内容についての質問に答えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口頭練習を十分に行う。</li> <li>・英文を書き写す際に個別指導をし、速く正確に書けるよう助言する。</li> </ul> <p>「聞くこと」「読むこと」で得た知識等を自分の体験や考えと結びつけ、「話すこと」「書くこと」を通じて表現できるよう工夫する。</p>	

3			<p>○本文の意味を考えながら強弱やイントネーションなどに注意して音読することができる。</p>					
4	<p>・ポールと久美の会話文を読む。 ・ソフトテニスについて知る。 ・What do you ~ ? の疑問文の意味・用法を理解する。</p>	<p>○会話練習に積極的に参加している。</p>	<p>○本文の意味を考えながら強弱やイントネーションなどに注意して音読することができる。 ◎What do you ~ ? を使って問答することができる。</p>	<p>○教科書の本文を正しく書き写すことができる。</p>	<p>◎質問に対して答えることができる。</p>	<p>◎本文の内容について質問に答えることができる。</p>	<p>○疑問詞を用いた疑問文What do you ~ ? の意味・用法を理解している。</p>	<p>・口頭練習を十分に行う。 ・英文を書き写す際に個別指導をし、速く正確に書けるよう助言する。</p>
5 本 時	<p>・まとめ</p>	<p>◎積極的に会話をしようとしている。</p>	<p>◎一般動詞を用いた英文を言ったり問答することができる。</p>		<p>◎一般動詞を用いた英文を正しく聞き取ることができる。</p>			<p>・会話に参加できない生徒に助言する。 ・グループ活動に全員が参加できるように励みます。</p>



(3) 展開

ねらい達成のため、活動の流れを工夫したり、活動時間を十分確保する。

◎自校のチェックポイントより  
自校のチェックポイントを展開の中で具体化する。

学習過程	単機	学習活動	教師のかかわり	評価
1 あいさつ	2 (一斉)	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語であいさつをする。</li> </ul> <p>つづりと発音を関連づけて指導する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語でコミュニケーションする雰囲気づくりをする。</li> </ul>	<p>具体的な学習活動の展開に即して、観点別の評価規準を設定する。</p>
2 既習単語の復習	10 (一斉)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワードカードを見ながら単語を読む。</li> <li>ピンゴゲームをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALTのあとについて音読しながら、単語の意味と正しい発音を確認する。</li> <li>◎机間指導をしながら単語を聞き取れない生徒を把握する。</li> </ul>	
3 一般動詞の疑問文の理解と応用	16 (一斉)  (ペア)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のめあてを確認する。</li> <li>一般動詞の疑問文を使って積極的に会話しよう。</li> <li>一般動詞の疑問文の作り方を確認する。</li> <li>ペアでゲーム形式の会話練習をする。</li> </ul>	<p>教師が生徒の多様な反応に対してどう支援していくかを記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>be動詞との違いを再確認する。</li> <li>JTEとALTがデモンストレーションをしながらゲームの方法を説明する。</li> <li>未習の単語の意味と発音を確認する。</li> <li>◎机間指導により、会話が滞っている生徒のつまずきの原因を把握する。</li> </ul>	<p>【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般動詞 (have, like など) やその疑問文を使って、積極的に会話をしようとしている。(観察)</li> </ul> <p>【表現の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般動詞 (have, like など) やその疑問文を使って、問答をすることができる。(観察)</li> </ul> <p>【理解の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般動詞 (have, like など) を含む文の内容を正しく聞きとることができる。(観察)</li> </ul> <p>【言語や文化についての知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般動詞の疑問文と否定文の作り方を理解している。(ワークシート)</li> </ul>
4 一般動詞の疑問文の理解と応用	20 (グループ)  (個)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALTに質問しながら「人物あてゲーム」をする。</li> <li>活動のまとめとしてワークシートに英文を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>JTEとALTがデモンストレーションをしながらゲームの方法を説明する。</li> <li>◎グループ活動の際に、声かけをしながら人間関係を把握する。</li> <li>◎机間指導により、取りかかりが遅い生徒や理解が困難な生徒の様子を把握する。</li> </ul>	
5 あいさつ	2 (一斉)	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語であいさつをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>明るく元気にあいさつする。</li> </ul>	

言語活動と効果的に関連づけて文法を学ばせる。

場面の設定に工夫をしながら幅広く言語活動をする。

## 第2章 校内研修の充実と授業研究会の改善に向けて

### I 校内研修の進め方

#### 1 校内研修のマネジメントサイクル

各学校には、自校の教育課題を解決するため、すべての教職員による組織的な取組により、校内研修を積極的に推進することが求められています。研修の全体計画を作成する際には、管理職のリーダーシップの下、学校のマネジメントサイクルに基づき、教職員一人一人が学校運営に対する参画意識をもって取り組むことができるよう配慮することが大切です。

全教職員が、「自校の教育課題の解決のために、校内研修をどのように実施するのか」ということを理解し、『学校の教育目標』を踏まえ、課題の共有化を図った校内研修の全体計画作成」や「ねらいを明確化し、教職員の力量を高める授業研究」、「学校教育が抱える課題の複雑・多様化に応える校内研修」等の課題を、Plan(計画) → Do(実行) → Check(検討・評価) → Action(改善)のPDCAサイクルに具体的に関連付けていくことが大切になります。

#### 2 校内研修を活性化させるためのリーダーの役割

校内研修を活性化するために、管理職は、リーダーシップを発揮し、研修の明確な方向性を示し、的確な管理・運営を行うとともに、中心となって研修を企画・運営する主幹教諭、指導教諭、教務主任、研修主任、教科主任、学力向上推進員等に適切な指導や助言を行う必要があります。

主幹教諭、指導教諭、教務主任、研修主任、教科主任、学力向上推進員等は、校内研修推進の柱です。効率的な校内研修を実施するためには、管理職のビジョンや学校経営の方針・年度の重点等を理解し、具現化する力が必要とされます。また、校内研修が円滑に進められるようにするためには、教職員の課題意識等の把握に努める必要もあります。

### II 授業研究の改善

#### 1 授業研究とは

「実践における課題を明確にし、課題解決のための手だてを考え、実践することを通して、その効果を確認し、その後の授業に生かす」という一連の流れのことを言います。

#### 2 授業研究のねらい

- 授業実践における課題解決の営みを通して、課題解決のための手だてを講じるために必要となる授業技術を身に付けるとともに、授業の構想・展開・評価における自己のものの見方や考え方を広げたり深めたりする。
- 共通する課題に対して協働的に取り組むことにより、学校全体の教職員集団の意識が高まる。「同僚性」や「協働性」が醸成された風土、つまり、協働的な職場風土が学校内にはぐくまれる。

### 3 授業研究会改善のポイント

#### (1) 事前の授業研究の工夫

事前研究は大切ですが、時間的に制約が多いので、効率的な研究会を行う必要があります。事前研究会では、協議の視点を明確にし、1時間程度で行えるプログラムを作成して実施することが大切です。授業者と参観者が一緒に事前研究をすることで、全員で授業をつくり上げていくという意識をもつことができます。

また、事前研究会の前に授業者は学習指導案を参加者に配付しておき、次のような観点で、指導案について目を通してもらっておくと、児童生徒の実態把握や教材分析、効果的な指導方法等についてより焦点化した研究会になります。

#### ○学習指導案を見る視点の例

項目	内容	チェック
単元（題材）観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領を踏まえている。</li> <li>・単元（題材）の目標や身に付けさせたい力を明らかにしている。</li> <li>・単元（題材）の価値を明らかにしている。</li> </ul>	
児童生徒観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身に付けさせたい力にかかわる既習事項の定着状況や課題を明らかにしている。</li> <li>・定着状況や課題をアンケート等で分析している。</li> </ul>	
指導観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元（題材）観を踏まえた上で、指導のポイントを示している。</li> <li>・児童生徒観を踏まえた上で、指導の工夫を具体的に示している。</li> </ul>	
単元（題材）の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の指導事項と対応している。</li> <li>・身に付けさせたい力を明らかにしている。</li> </ul>	
単元（題材）の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元（題材）の目標に応じた評価規準を設定している。</li> <li>・目標を実現した子どもの姿を想定したものになっている。</li> </ul>	
指導計画 評価計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画・評価計画を作成している。</li> <li>・学習内容、時数を明記している。</li> <li>・単元（題材）の評価規準と整合している。</li> <li>・1時間の授業で重点的に扱う評価がわかる。</li> <li>・評価の観点のバランスがとれている。</li> </ul>	
本時の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標が明確になっている。</li> <li>・目標を達成できる学習展開となっている。</li> <li>・目標に応じた評価規準を設定している。</li> <li>・「おおむね満足できる状況」を実現させるための手だてを具体的に記している。</li> <li>・評価方法、回数、時期が適当である。</li> </ul>	

[徳島県立総合教育センター「授業力向上研修の手引」より]

(2) 研究授業の改善

① 授業記録の工夫（記録用紙の例）

記録用紙は、あらかじめ用意された項目にしたがって、教職員と児童生徒のかかわりや児童生徒の学びの様子を時系列に記録し、変化を見取ることができます。次に3種類の記録用紙のパターンを示しましたが、見取る対象や観察の視点に合わせて工夫して作成してください。

(ア) 主に「学級全体」を見取る場合の例

時刻	指導者の発問・指示・板書・支援等の様子	児童生徒の発言・活動の様子	その他
<p>時間よりも記入しやすい時刻で記録しましょう。</p>	<p>教師の働きかけを具体的に記入しましょう。</p>	<p>発言内容・挙手の数・児童生徒の表情などを具体的に記録しましょう。</p>	<p>教具や教室の環境、その他気付いたことがある場合記入しましょう。</p>

(イ) 主に「グループ」を見取る場合の例

担当〔            〕班	
A	B
C	D
E	F
<p>班員のかかわり</p> <p>参観者で班ごとに分担を決めて、個人の様子を記録しましょう。その際に、班員同士のかかわりも記録しておきましょう。</p>	

(ウ) 主に「個」を見取る場合の例

時刻	指導者・児童生徒の発言	観察した児童生徒
	<p>教師の指示内容や支援の様子、全体の児童生徒の様子等を記入しましょう。</p>	<p>発言内容・表情・動作などを具体的に記録しましょう。</p>

○参観時における児童生徒の活動を見取る視点（例）について

	児童生徒の活動を見取る視点	チェック
導入時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対して興味・関心を示している。</li> <li>・自分の問題として受け止めている。</li> </ul>	
活動時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いち早く活動に取りかかろうとしている。</li> <li>・興味・関心をもち、意欲的に活動している。</li> <li>・ねばり強く取り組んでいる。</li> <li>・いろいろなアイデアを出している。</li> </ul>	
問題解決時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで問題を解こうとしている。</li> <li>・より高度な問題に挑戦しようとしている。</li> <li>・見通しを立てて考えている。</li> <li>・筋道を立てて考えている。</li> <li>・既習事項を使って解いている。</li> <li>・一通りの解決法だけでなく、よりよいものを求めようとしている。</li> <li>・自分の考えを簡潔にノートに等書している。</li> <li>・結果を確かめたり、解決方法を振り返ったりしている。</li> </ul>	
話し合い・発表時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで話し合いに参加し、発言しようとしている。</li> <li>・友だちの考えを積極的に取り入れようとしている。</li> <li>・多様な考えを比較してまとめたり、よりよい考えにしたりしようとしている。</li> <li>・きちんと返事をし、わかりやすく発表している。</li> </ul>	
教師の発問に対する応答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に答えようとしている。</li> <li>・友だちの答えを理解しようとしている。</li> </ul>	
説明を聞くとき	<ul style="list-style-type: none"> <li>・真剣に興味深く聞いている。</li> <li>・メモをとりながら聞いている。</li> </ul>	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した内容や方法等を整理しようとしている。</li> <li>・学習内容が理解できている。</li> </ul>	

【徳島県立総合教育センター「授業力向上研修の手引」より】

### (3) 授業研究会の工夫

#### ○ 参観者全員の意見を引き出すために

##### (授業リフレクションの手法を用いたワークショップ型授業研究会)

授業後の研究会では、最初の発言者の内容で協議の柱や方向性が定まり、他の意見をもっている、なかなか言い出せなくなる場合があります。そこで、記録用紙による記録以外の方法として、一人一人の意見を付箋はんに記入し、この付箋を活用して、協議を進める方法を紹介します。

「一人一人が気付きや考えを付箋に記入する」「全員の意見が引き出せる方法を取り入れた協議を行う」「全体で成果、課題、改善の視点を共有する」ことを前提に効果的な授業研究会を進めていきましょう。

#### ① 授業研究会の進め方

##### ～プロンプター（進行役）による進行の仕方（例）～

##### ア 授業者の自己リフレクション（5分程度）

授業者に、「授業のねらい」、授業の中で起きた「迷い」や「不安」、「驚き」、「方針を変更したこととその理由」などを、自由に語ってもらいます。

◆○○先生、最初に、今日の「授業のねらい」と、授業に対する「思い」についてお話しください。

◆授業を振り返って、授業の中で起きた先生自身の「迷い」や「不安」、「驚き」、などはありましたか。

◆当初構想していた授業の展開を、授業中に変更したことはありましたか。その場合は、変更した理由についてもお話しください。

◆○○先生から、今日の授業に関して、参観された先生方に特に意見を聞いてみたいことはありませんか。

※聞いてみたいことがある場合は、それらを協議の中心にする。

◆○○先生から出されたことに関して、皆さんと一緒に考えていきましょう。

##### イ グループリフレクション（45分～90分程度）

参観者が主に見てきた生徒が、どの場面で学んでいたのか、どの場面ですまずいていたのかを、参加者全員で話し合い、授業の振り返りをします。その際、授業者の意見を聞きながら、授業者の意図を共感的に理解しようと努めるようにします。授業を観察して学んだことを掘り下げて話し合う必要が生じるかも知れません。

最初の発言では、プロンプターが授業の良かった点を指摘し、どのような計画のよきの指導であったか、どのような配慮のよきの言葉かけであったかというようなことを授業者に尋ねます。

##### ウ 参加者全体のふり返り（5分程度）

研究授業と授業研究会で学んだことや、今後の授業に生かしたいことをお互いにふり返る。授業者にとって役立つ授業研究会にすることが大切なので、「振り返りカード」などに感想を書いてもらい、授業者に渡してもよい。

○グループリフレクションのときの進め方（例）

- ◆〇〇さんが、□□に熱心に取り組んでいたのは、先生の言葉かけが良かったからでしょうね。あの場面で、先生は何を思って、あのような言葉かけをしたのですか。（授業者）それは、……
- ◆それでは、授業を観察した先生方から、授業中に気付いたことを中心に話し合ってください、協議を深めていきましょう。
- ◆最初に、授業を観察して参考になったことや生徒の様子について、ぜひ授業者の〇〇先生にお伝えしたいことなどがありましたら、付箋を貼りながらお話しください。  
時系列に出して行きますので、導入の部分について何かありましたら、どなたかお話しください。
- ※出ないようだったら、指名して発表してもらおう。
- ※導入の部分で特に気付いた事や授業者に伝えたいことなどがなかったら、その他の展開の部分でもいいので発表してもらおう。
- ◆〇〇先生から……という気付きについてお話がありましたが、同じように見取った先生はいらっしゃいませんか。
- ※同じように見取った先生の一人一人に感想や意見を述べてもらおう。
- ◆では次に、気になったことやぜひ授業者に聞いてみたいことがありましたら、付箋を貼って、授業者に質問してください。
- ※これもできるだけ、時系列にそって出してもらおう。
- ※出ないようだったら、指名して発表してもらおう。
- ◆同じような疑問や質問をおもちの方も付箋を貼ってください。
- ※付箋が集中する部分があったら、その理由を考える。授業者が応えた内容について、さらに聞いてみたいことが出てきたら、そこをさらに掘り下げる。ただし、問いたくないのではないことに留意する。
- ※授業者自身の「迷い」や「不安」、「驚き」について、それらの理由を再度聞いてもよい。
- ※授業者から参観者の意見を聞きたいということがあったら、参観者に話してもらおう。
- ◎展開、まとめの順に進めていき、付箋が出し尽くされたら、最後の振り返りを行う。
- ◆〇〇先生、本日の研究授業と授業研究で学んだことや、今後の授業に生かしたいことをお話しください。
- ◆最後に、参観者の先生方も、本日の研究授業と授業研究会で学んだことや、今後の授業に生かしたいことをお話しください。
- ※授業者にとって役立つ授業研究会にすることが大切なので、締めくくりとして「振り返りカード」などに感想を書いてもらい、授業者に渡してもよい。

◎振り返りカードの例

（ ）先生へ 記入者（ ）  
研究授業と授業研究で学んだことや、今後の授業に生かしたいこと

~~~~~

## ② 授業研究会の性格を左右する付箋の記入について

### ア 付箋への記入の仕方

|                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>ア) 授業前に協議の視点を確認し、青色・ピンク色の2色の付箋を配布する。</p> <p>イ) 授業を参観しながら、ルールに基づいて付箋に意見を記入する。</p> <p>ウ) 付箋を持ちより、協議の視点から分類して大型用紙に貼る。</p> <p>※ 青色の付箋によい点、ピンク色の付箋に改善点を書く。</p> <p>※ 1枚の付箋に1つの意見を書く。</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### イ 付箋の記入例

| 視 点     | 〈青色の付箋〉<br>・よかった点<br>・参考になる点<br>・学びが成立していた点 | 〈ピンク色の付箋〉<br>・質問点<br>・改善点<br>・気になったこと |
|---------|---------------------------------------------|---------------------------------------|
| 指示・発問   | ～という発問で子どもの思考が深まっていった。                      | ～という指示はあの場面で適切だったか。                   |
| 板書      | ～の板書で色を変えたのはよかった。                           | 掲示物を準備しておけば時間の短縮が図れたのではないか。           |
| 授業の展開   | 評価規準にそった～な授業になった。<br>～したことで活動が活発になった。       | 班の活動の時間をもう少しとるとよかったのではないか。            |
| 個に応じた支援 | 〇〇さんへの～といった言葉がけで興味が持続した。                    | ◇◇さんへの支援の意図は何だったのか。                   |

参観者は、自分の気づきや感想を記した付箋を貼る行為によって意見を表明したことになるので、発言に対する抵抗感が軽減され、話し合いに積極的にかかわっていく姿勢が生まれ、全体として協議の活性化を図ることが期待できます。

司会の担当者は、参観者全員が意見や感想を出しやすい雰囲気をつくることや普段はあまり積極的には発言できない教職員も発言できるようにすることに心がけます。そのためには、付箋に書かれたことが小さな気づきであったとしてもそれを認め、テーマとうまくつないで発言を引き出し、自信をもって話すことができるようにすることも重要です。

参観者全員の意見を聞き、全員で課題を考えているという意識が生まれることは、全員で付箋を分類し関係を分析することによる多様な考えの広がりにつながるとともに、具体的な課題について共通理解を図りながら解決していく授業研究会のスタイルを生み出すことにもなります。

結果として、様々な場面で「付箋」等を活用した協議会や研修会が可能となり、日常の授業実践の改善の大きな原動力となります。



### ③ 付箋を貼るためのワークシートの分類の方法

#### ア 教師の指導と生徒の反応を授業の流れで分析しやすい「指導案拡大型のワークシート」

参観者が研究授業の中で記録した付箋を、授業の展開の流れに沿ってそのまま貼り出しながら、参加者全員で授業を振り返る方法です。このように時間軸で整理してみると、教師の発問や指導などと、生徒の学習活動との関係が見えてきて、効果的に協議が展開されることが期待できます。

※後述の実践例参照

#### イ 課題やテーマ別に分析しやすい「マトリックスのワークシート」

授業者の課題や研究テーマが明確にされている場合は、参観者にもその視点から授業を観察してもらい、授業研究では、課題や研究テーマにそって付箋を整理しながら貼り出す方法もあります。このようにすることで、最初から話題を焦点化し、重点事項を優先的に協議することができます。

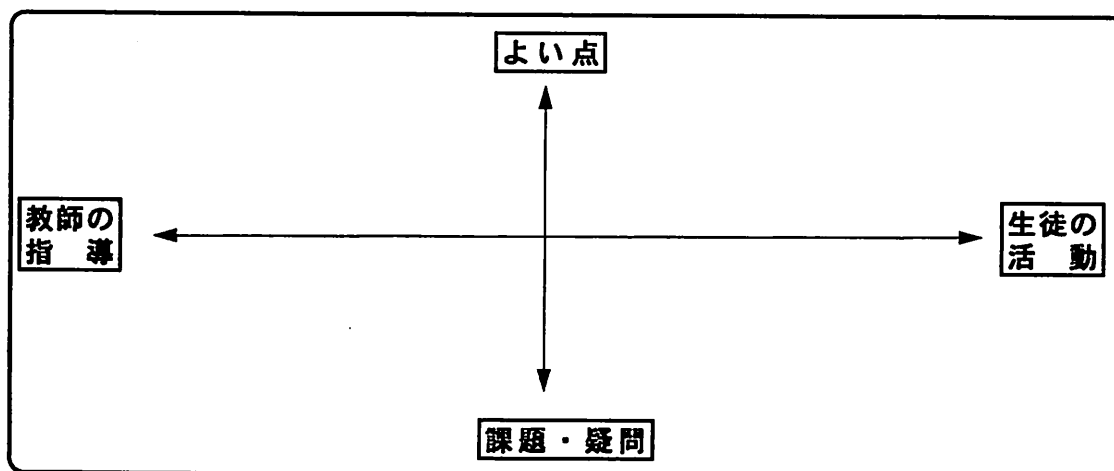
付箋を使った授業研究会に要する時間は、参観者や付箋の数にもよりますが、付箋のすべてについて話題にすると、授業時間の2倍程度を要することが少なくありません。しかし、この例のように協議の方向性を定めておけば、授業研究にかかる時間が十分に確保できない場合でも、優先順位に従って協議することが可能になります。

課題やテーマの例としては、「学び合い」「主体的な学習」「『読む・書く能力』の育成」や「ノート指導」「教材の提示」「視聴覚機器の活用」など、研究テーマに合わせて行うと効果的です。

※後述の実践例参照

#### ウ 教科の指導法について理解を深める「縦軸・横軸のワークシート」

縦軸に「よい点」と「課題・疑問」、横軸に「教師の指導」と「生徒の活動」などと位置付け、付箋をグルーピングし、小見出しを付けて整理しながら振り返る方法です。その際、「本時の目標」や「授業者の課題」などを意識して整理していくと、目標の達成度や課題を解決する手だての検証ができます。



### Ⅲ 授業研究改善の実践例

ここでは、学習指導ハンドブック改訂の研究員の学校において実践していただいた取り組みについて紹介します。小中学校での2つの事例は、前述した国語と社会の指導案のもとに言語活動の充実を図る授業実践ですが、授業研究会の在り方に視点を当てて御覧ください。

#### 1 「指導案拡大型のワークシート」による授業研究会

##### (1) 研究授業の内容

###### ①小学校3年 社会科

地図を広げて「足利市を案内します」

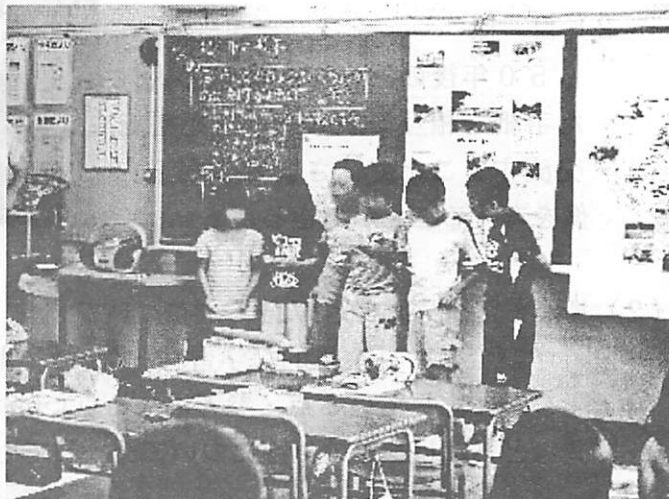
###### ②本時の指導

###### 1) 題目

足利市には、どのようなとくちょうの場所があるの

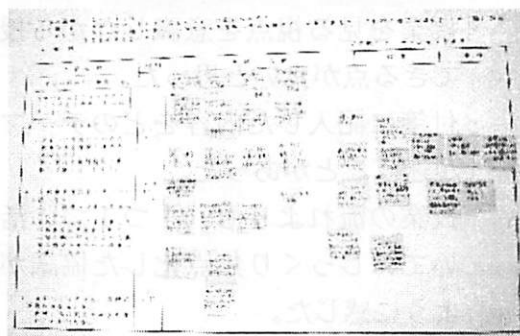
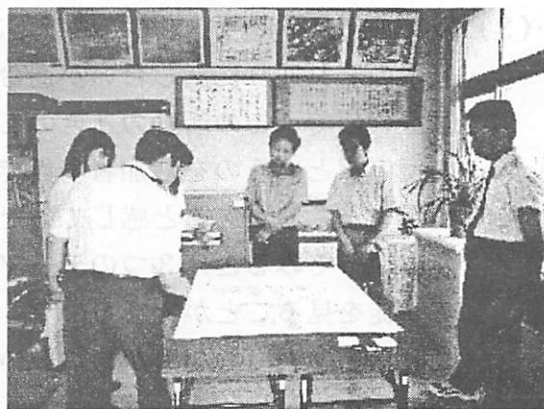
###### 2) ねらい

グループで調べた足利市の特徴のある地域の発表を聞き合う活動を通して、足利市の様子は場所によって違いがあることを考えることができる。



##### (2) 授業研究会を実践してみて感じたこと

- ・展開の流れに沿っているので、付箋への記入がしやすい。
- ・教師の発問や指導、児童の学習活動を簡単に共有することができるので、話し合いがより深まると思う。
- ・授業の流れ通りに話し合いを進めることにより、もう一度授業を参観しているような感覚になり、より授業者の意図が分かり易くなったと思う。
- ・時系列で進めていくと、小さな事も落とさずに研究会を進められると思う。しかし、本時の焦点、研究の中心での話題が不足する可能性も高い。すべての付箋を貼って、多い部分や共通する部分に焦点を当てると良いと思う。これが研究の中心である。
- ・誰でも、分かり易く参加できる点では有効であると思う。人によっては、児童生徒の行動に目を向ける人もいるだろうし、教師の発言などに目を向ける人もいると思うので、多様な意見が出るところが良いと思う。
- ・時系列で記入していくため、一時間の流れに沿って振り返ることができ、分かり易い。



## 2 「マトリックスのワークシート」による授業研究会

### (1) 研究授業の内容

#### ①中学校1年 国語科

読書を楽しもう

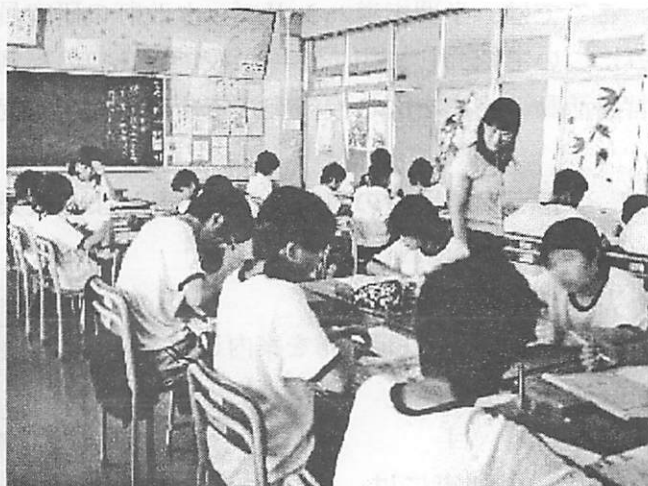
#### ②本時の指導

##### 1) 題材名

「さんちき」

##### 2) 目 標

50年後の三吉を想像して書いた手紙を相互に読み合い、感想を交流することで、さまざまな三吉像を考えることができる。

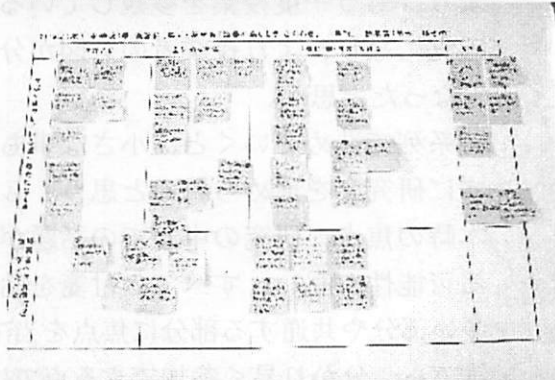
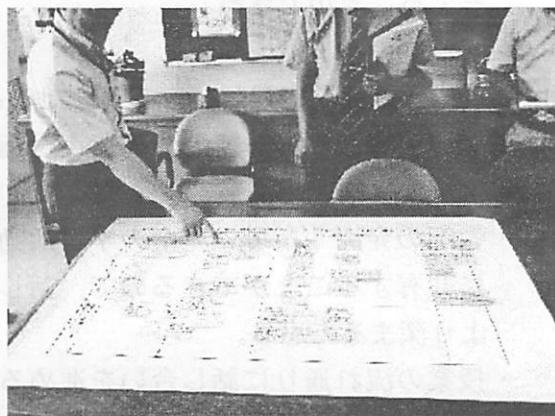


### (2) 授業を見る視点で設けたテーマについて

「学び合い」、「主体的な学習」、「『読む・書く能力』の育成」「その他」に分類して「学びが成立している点・参考になる点」は青い付箋、「気になったこと・授業者への質問など」はピンクの付箋について記入してもらった。

### (3) 授業研究会を実践してみて感じたこと

- ・授業の流れ通りに話し合いが進むわけではないので「この活動のときのこの生徒の反応」というのを参加者全員で共有しづらいところがあると感じていたが、実際にやってみると、3つのテーマに絞って生徒を見ることができるので、生徒の変容、どのような能力が身についたかが分かり易かったと感じた。
- ・授業を見る視点を意識しながら授業参観できる点が良いと思った。
- ・付箋に記入した内容をどのテーマにするか迷うことがあった。
- ・授業の流れよりも、1つ1つの活動について、じっくり焦点化した協議ができたように感じた。
- ・授業を見る視点も明確であり、研究会でも話し合いが焦点化し無駄がなかった。
- ・授業を見る視点は3つまでがよい。それ以上だと区別しづらくなると感じた。
- ・授業において、どんなことを見て欲しいかがはっきりしている場合には、とても有効であると思う。



### 3 授業研究会に参加した研究員の感想

- ・今まで行われていた授業研究会では、ややもすると自分の意見を言わないまま終わってしまっていた。しかし、付箋を利用した授業研究会では、自分の意見をたくさん述べるので良いと思った。また、「マトリックスのワークシート」による授業研究会では、3つのテーマと視点がはっきりしているので授業を見るのも見やすくなると感じた。
- ・やり方に慣れてしまえば、先生方の意見を出しやすくて良い方法だと思う。協議の時間が30分位だと、このような方法で実施するのは難しいと思った。
- ・付箋を書くことにより、授業研究会に参加している意識が高まり、積極的になると思う。先生方の同じような考えや違う意見が明確にあるので、共感したり違う視点での意見に勉強になったりした。
- ・付箋の色が2色に分類されているため、よい面と課題が見やすい。また、参加者の意見が紙面に残るため、資料として残せる点が良い。「指導案拡大法」より「マトリックス法」のほうが、視点を明確にしてあるため、話し合いがしやすかったと感じた。
- ・参加者が皆それぞれに自分の意見を形式的に発言するのではなく、それぞれ問題意識を持って主体的に授業研究会に参加できるところが素晴らしいと感じた。本校では、複数の授業を全職員で参観し、授業研究会は分科会に分かれて参加するため、休み時間にあらかじめ全員分の付箋を貼っておいてもらい授業研究会を開く方法をとっている。同じ付箋を使った授業研究会でも参加する人数などによって、少しやり方を工夫するところがあると感じた。

### 4 授業リフレクションの手法を用いた授業研究会の期待される成果と留意点

#### (1) 期待される成果

- ・参加者全員で多面的に成果と課題を分析することができる。
- ・主体的に解決にかかわり、アイデアを積極的に出し合うことができる。
- ・多様な視点から改善策を見出し、優先順位を付け決定していくことができる。
- ・先生方の自主性・同僚性・具体性が生まれ、ボトムアップ型の校内研修を行うことができる。
- ・実際の研修（仕事）を通じて、必要な技術、能力、知識、あるいは態度や価値観などを身に付けさせる教育訓練（OJT）を行うことができる。

#### (2) 留意点

- ・プロンプター（進行役）の役割は重要である。事前に授業研究会の進め方について、周知しておく必要がある。リフレクションの場での「聞き役」、授業者の振り返りを支援する役を担うことが大切である。
- ・教科ごとに指導目標及びそれに基づく指導計画(Plan)を立て、授業(Do)を展開し、これらの指導計画や授業の展開が適切であったかどうかを、授業評価(Check)や授業研究会を通して形成的に評価して、よりよい教育活動の改善(Action)に生かすというPDCAサイクルの観点が重要である。

○参考文献

- (1) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申） 文部科学省
- (2) 小学校・中学校学習指導要領 文部科学省
- (3) 「授業評価の導入と活用に関する参考資料(小・中学校編) 子どもと共につくるよりよい授業を目指して  
－授業評価と授業研究会の新しい展開－」 栃木県総合教育センター
- (4) 「授業力向上研修の手引き」 徳島県立総合教育センター
- (5) 「季刊 政策・経営研究 2009 Vol.2」 岐阜大学教授 大杉 昭英

平成21・22年度研究員

- ・斎藤 勝 (けやき小学校)
- ・近藤 正和 (矢場川小学校)
- ・神林 孝文 (小俣小学校)
- ・大竹 三代子 (第三中学校)
- ・須永 ゆきの (山辺中学校)

主担当研究職員

- 平成21年度 岡部 陽一  
平成22年度 佐藤 宏行